# 平成２５年度　業務実績報告書

平成２６年６月

地方独立行政法人

岐阜県立多治見病院

## Ⅰ　法人の概要

1　法人の現況

(1)　法人名称　　地方独立行政法人岐阜県立多治見病院

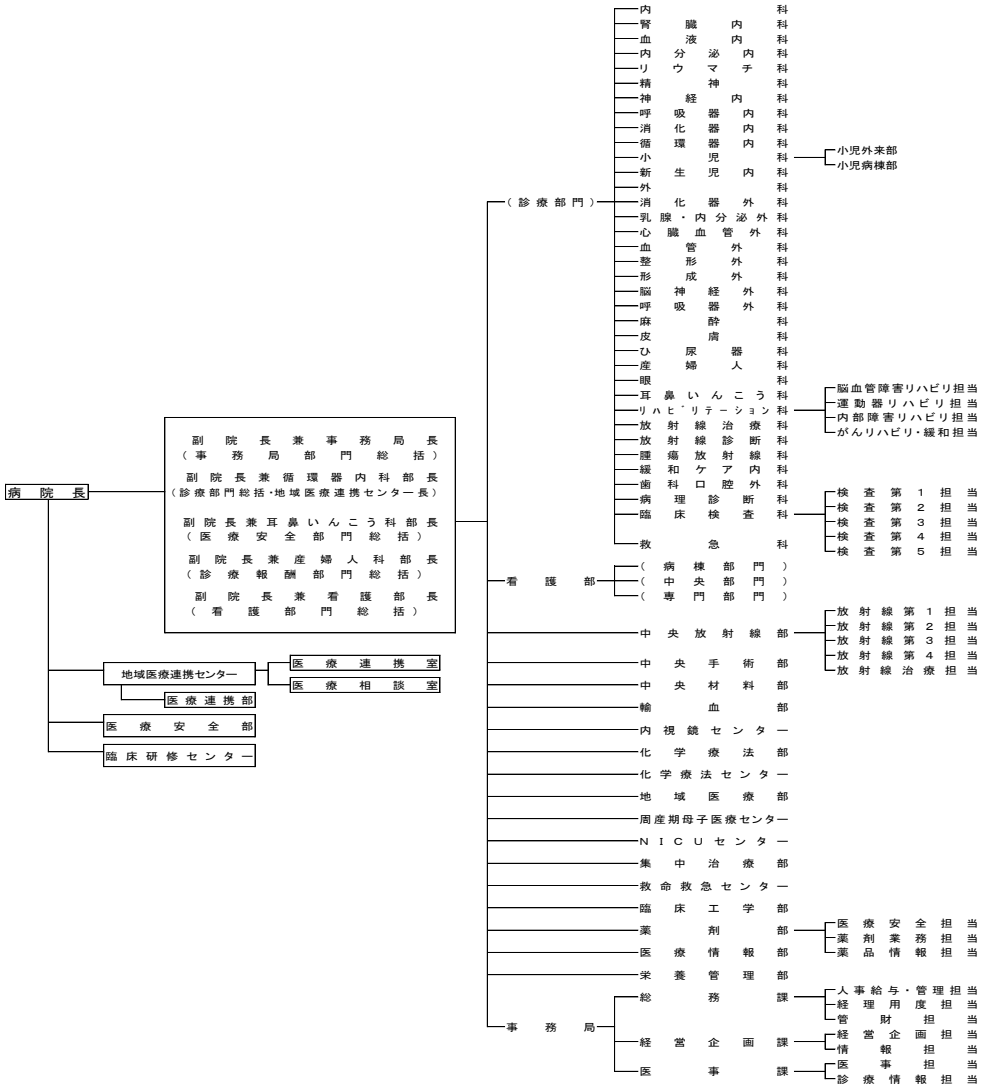
(2)　所在地　　多治見市前畑町５丁目１６１番地

(3)　設立年月日　　平成２２年４月１日

(4)　役員の状況

| 役　職 | 氏　名 | 備　考 | 役　職 | 氏　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理事長 | 原田　明生 | 院　長 | 理　事 | 鈴木　藏 | 陶芸家、重要無形文化財保持者 |
| 副理事長 | 岩田　敏雄 | 副院長（事務局長） | 理　事 | 加藤　智子 | ヤマカ㈱代表取締役 |
| 理　事 | 横井　清 | 副院長 | 監　事 | 小島　浩一 | 弁護士 |
| 理　事 | 上田　幸夫 | 副院長 | 監　事 | 下條　俊幸 | 公認会計士 |
| 理　事 | 糸川　邦子 | 副院長（看護部長） | | | |

(5)　組織図　　平成２５年４月１日現在



(6) 職員数 **(平成２５年4月１日現在)　　９７４人**

| 職　種 | 医師 (歯科医師含) | 看護師 (准看護師 看護師含) | コメディカル | 事務ほか | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 常　勤 | １１８人 | ４６７人 | １２９人 | ４９人 | ７６３人 |
| 非常勤 | ２２人 | １０２人 | １３人 | ７４人 | ２１１人 |
| 合　計 | １４０人 | ５６９人 | １４２人 | １２３人 | ９７４人 |

2　法人の基本的な目標

(1)　中期目標の前文

岐阜県立多治見病院においては、県民が身近な地域でいつでも安心して良質な医療を享受できるように、地域の基幹病院として地域の医療水準の向上、住民の健康と福祉の増進に取組んできた。

しかし、少子・高齢化の進展、医療技術の高度化・専門化、疾病構造の変化、医療需要の高度化・多様化などにより、近年の医療を取り巻く環境は大きく変化している。

特に、産科・小児科の医師不足、手厚い看護体制の導入に起因する看護師不足、診療報酬のマイナス改定等、医療、病院経営を取り巻く状況は一段と厳しさを増している。

一方、県民の健康への関心はきわめて高く、今後、これまで以上に、質の高い医療サービスを求められることが十分に予想される。

これからも、岐阜県立多治見病院として、このような、医療制度や社会経済情勢の変化に迅速に対応し、県民が必要とする医療をより良くかつ継続的に提供することができるように、地方独立行政法人に移行することとし、この中期目標において、地方独立行政法人岐阜県立多治見病院の業務運営の目標や方向性を示すこととする。

地方独立行政法人化後は、地方独立行政法人制度の特徴を十分に活かした、自律性・機動性・透明性の高い病院運営に努め、東濃地域の医療の最後の砦として地域全体の医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与していくことを強く求めるものである。

3　設置する病院の概要

(1)　病院名称　　岐阜県立多治見病院
　　診療科:３６科

(2)　所在地　　多治見市前畑町５丁目１６１番地

(3)　沿革

| 年 | 月 | 概　　要 |
|---|---|---|
| 昭和14年 | 5月 | 県立多治見病院開設→診療開始　昭和14年9月8日 |
| 昭和33年 | 10月 | 医療法による「総合病院」の指定 |
| 昭和43年 | 2月 | 岐阜県知事から「救急病院」の指定 |
| 昭和59年 | 2月 | 診療本館（現　中央診療棟）完成 |
| 昭和63年 | 12月 | ＭＲＩ棟完成 |
| 平成　2年 | 10月 | 新東病棟（現　東病棟）完成 |
| 平成14年 | 3月 | (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定取得 |
| 平成18年 | 1月 | 電子カルテシステム導入 |
| 平成22年 | 3月 | 中・西病棟完成 |
| 〃 | 4月 | 地方独立行政法人に移行 |
| 〃 | 6月 | 緩和ケア病棟２０床開設 |
| 平成24年 | 1月 | (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価(Ver.6.0)の認定取得 |
| 〃 | 5月 | 精神科病棟４６床開設（再開） |
| 平成25年 | 4月 | 高精度放射線治療センター稼働 |

(4)　その他

①基本理念

安全で、やさしく、あたたかい医療に努めます。

②行動指針

・分かりやすい言葉で、分かりやすく説明します
・安全を何度も確認することを怠りません
・常に高度先進医療を取り入れ、最新・最高の医療を目指し自己研鑽に努めます
・倫理観に基づく医療人としての誇りと自覚をもって取り組みます
・健全経営に努めます

## Ⅱ　全体的な状況

### 1　住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するための取組の状況

１－１　診療事業

東濃地域の基幹病院として、近隣の医療機関等との役割分担・連携のもと、地域の限られた医療資源を有効活用し、良質かつ高度な医療を提供できるよう必要な職員の確保、職員のスキルアップ支援、院内研修の実施、高度医療機器の計画的な整備、診療効率アップ及び患者目線に立ったサービス向上のための施設整備等の取り組みを行った。

地域がん診療連携拠点病院としての責任を果たし、地域から期待されるがん治療の推進に応えることを目的として、がんの放射線治療レベルを向上させ、患者負担を軽減できる高精度放射線治療装置の本格稼働を行った。また、ＣＴ、ＭＲＩなどの検査枠の見直しをし、さらに開業医への訪問活動に中央放射線部の職員が同行し、ＣＴ、ＭＲＩなどのＰＲ活動を行った。

患者・住民サービスの向上については、雨天時等における車椅子等を使用した来院者の利便性向上を図るため、中病棟副玄関から東病棟時間外出入口間の歩道に屋根を整備し、待ち時間に対しても、早朝コンシェルジュ業務を８時から配置するなどをして積極的な患者案内の取り組みにより、診療や会計待ちに関するストレスの解消を図った。また、患者に対する満足度・待ち時間調査を実施し、患者ニーズの把握に努めるとともに病院運営協議会を開催し、地元住民の要望・意見収集にも取り組んだ。その他、患者相談窓口を充実させ、その内容に基づく患者サポート体制カンファレンスを毎週１回開催して、医療相談、クレーム事例など患者からの意見・要望を把握し、医療安全活動と合わせて、患者の権利の保障について検討した。

患者や家族に治療に対する理解を深めてもらうことを目的に、ＮＰＯ法人「医療の質に関する研究会」から図書などの寄付を受け、平成２５年４月に患者図書室「ぬくた～らいぶらり」を開設した。（平成２５年度利用者９，６０４人）

１－２　調査研究事業

提供する医療の質及び地域の医療水準の向上等を図るため、クリニカルインディケーターについて、各診療科の実績データをホームページ上で公表及び経年的に評価を行うようにして、調査研究事業に積極的に取り組んだ。

地域医療機関や地域住民に対しては、病院が保有する保健医療情報を広く公開するため、市民公開講座の開催及び広報誌「けんびょういん」の発行などを行った。さらに医師、看護師が講師となり「健康づくり講座」を多治見市内の公民館で１２回開催した。（総参加者数　４２４名）

１－３　教育研修事業

質の高い医療従事者を養成するため最新の医療技術や知識を習得できるよう国内外の学会や講習会への参加に必要な費用を負担し支援した。

研修医を対象とした内科症例検討会、各診療科部長による講義、早朝勉強会を定期的に開催した。特に内科症例検討会では、研修医自らが症例提示を行うなど、より実践的な形式を採用し内容の充実を図った。また、研修医が求める臨床研修内容を臨床プログラムに反映させることにより、臨床研修体制の確立に努めた。

医学部生、看護学生等の実習生を積極的に受け入れ、医療従事者の育成に努めた。同時に救急救命士に対する病院実習も積極的に実施し、医療技術の向上を支援した。

１－４　地域支援事業

地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携を強化し、医療機関相互の役割を明確化することにより、それぞれの特色を生かした医療資源の有効活用、地域完結型医療を目指した。医師会長をはじめとした医療関係団体の代表者、関係行政機関代表者、学識経験者で構成する地域医療連携推進協議会を４回開催し、協議会を通じて地域医療連携パスの推進や、高度医療機器の共同利用等の推進を働きかけた。その結果、患者紹介率、逆紹介率ともに高い水準を維持することができた。（紹介率６５．３％、逆紹介率８０．８％）

地域全体の医療水準の向上を目的に、医師、看護師をはじめとした医療従事者を対象に各種講演会、研修会、勉強会、症例検討会等を開催した。また、次世代の地域医療の担い手育成のため、多治見看護専門学校、中京学院大学等に医師、認定看護師等を講師として派遣した。

医師不足の地域の医療機関やへき地医療機関への人的支援として、国民健康保険上矢作病院、国民健康保険蛭川診療所の他に、中津川市民病院へ医師を派遣した。

１－５　災害等発生時における医療救護

災害拠点病院（平成２３年１０月に指定）として、地震、火災、津波、テロなどの大規模災害発生時等に、病院機能を維持し、東濃西部地域での初期救急の中心となって活動できるよう、必要な施設、機材の整備確保、大規模災害を想定した災害実働訓練の実施、ＤＭＡＴの質の向上・維持のため厚生労働省、中部地区、岐阜県の開催する訓練に参加等、ハード・ソフトの両面から整備を行った。

## ２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組の状況

医療環境の変化や住民の医療需要に的確に対応できるよう、経営分析や予測、各種広報の展開など、経営基盤の強化を図った。

ＤＰＣ環境下における病院収益向上を目指し、診療報酬担当を中心にレセプトチェックシステム、ＤＰＣコーディング検証に取り組み、診療報酬請求の的確化と効率的な事務の推進による収益向上を図った。

材料費の節減では、各種委員会をとおして節減を図るとともに、平成２３年度から委託している医療コンサルタントのアドバイスを受けて医薬品については、カテゴリー別に分類したうえで、ディーラーとの交渉、メーカーヒアリングを実施し、節減を図ることができた。診療材料についても、経営コンサルティング業者を通じ、病床規模が同等な他病院との比較検討を行い、ディーラーとの交渉を有利に進め、年間契約品や新規採用材料費を節減した。また、日常業務の改善、在庫管理体制の確立のため、新たなＳＰＤ運用管理の委託業者をプロポーザルにより選定をし、平成２６年度からの運用の準備を図った。

医師の業務負担軽減を目的に平成２２年度から医師事務作業補助者を採用している。平成２５年度は、２４名から２８名に増員し、１５診療科の運用を２０診療科に拡大した。また、病棟事務補助者も配置し、看護師の業務負担軽減を図った。

## ３　予算、収支計画及び資金計画（財務内容の改善に関する事項）の状況

［収益］　医療連携の強化による患者数の増加や診療単価の増、平均在院日数の短縮などにより、計画に比べ医業収益において３．８%、収益全体でも３．４%（＋５億４千３百万円）の増となった。

［費用］　材料費や経費における価格交渉や契約方法の見直しなどの経費節減の努力により、計画に比べ医業費用において２．０%の増に収まり、費用全体では１．９%（＋３億円）とすることができた。

こうした業務運営の改善及び効率化により、単年度収支は５億７千６百万円の黒字となり、経常収支比率も１０４．０%と目標である１００%以上を平成２２年度から４年連続で達成した。

また、職員給与費対医業収益比率についても、４９．６%と目標である５０%以下を達成することができた。

経常収支比率　＝　（営業収益＋営業外収益）÷（営業費用＋営業外費用）×１００

| | |
|---|---|
| 営業収益 | １６，３５８，９８９千円 |
| 営業外収益 | １１４，６０７千円 |
| 営業費用 | １５，３８１，９４８千円 |
| 営業外費用 | ４６３，５５９千円 |

## ４　その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項の状況

職員の就労環境の向上については、医師、看護師等が職務に専念でき、負担を軽減できるよう医師事務作業補助者・病棟事務補助者等を採用し、効率的な職員の配置に取り組んだ結果、補助体制加算は昨年度の３０：１から２５：１となった。

院内保育では、民間会社に保育業務を委託し、夜間保育及び休日保育を開始するとともに、病児保育の利便性を向上させた。

必要な看護師数確保のため、県内外の就職ガイダンスに積極的に参加するとともに、育児中の女性職員が安心して働けるように育児部分休業制度活用の推進などに取り組んだ。

職員の健康管理については、法定検診（定期健康診断、人間ドック）、任意検診等（各種抗体検査、予防接種等）を確実に受診させるよう働きかけた。さらにメンタルヘルス対策にも取り組んだ。

医療機器・施設整備については、費用対効果、県民の医療需要、医療技術の進展等を総合的に判断し、機器の選定及び購入を行った。

法人が負担する債務の償還については、岐阜県に対する債務の償還を確実に実施した。

## Ⅲ　小項目別自己評価結果一覧表　（→評価書では　小項目ごとの検証結果一覧表　）

※一部、項目名を省略して記載しているものや、便宜的に項目名を付しているものがある。

| 大項目 | 中項目 | | 小項目 | 項目通番 | 自己評価 | 検証結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1　住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するための取組 | 1－1 診療事業 | 1-1-1 より質の高い医療の提供 | (1) 高度医療機器の計画的な更新・整備 | 01 | Ⅲ | |
| | | | (2) 長時間勤務の改善等働きやすい環境の整備 | 02 | Ⅲ | |
| | | | (3) 大学等関係機関との連携や教育研修の充実による優れた医師の養成 | 03 | Ⅲ | |
| | | | (4) 認定看護師や専門看護師等の資格取得の促進 | 04 | Ⅲ | |
| | | | (5) コメディカルに対する専門研修の実施 | 05 | Ⅲ | |
| | | | (6) ＥＢＭの推進 | 06 | Ⅲ | |
| | | | (7) 医療安全対策の充実 | 07 | Ⅲ | |
| | | | (8) 院内感染の発生原因の究明及び防止対策の確立のための体制整備 | 08 | Ⅲ | |
| | | 1-1-2 患者・住民サービスの向上 | (1) 待ち時間及び検査・手術待ちの改善 | 09 | Ⅲ | |
| | | | (2) 院内環境の快適性向上 | 10 | Ⅲ | |
| | | | (3) 医療情報に関する相談体制の整備 | 11 | Ⅲ | |
| | | | (4) 患者中心の医療の提供 | 12 | Ⅲ | |
| | | | (5) ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞｺﾝｾﾝﾄ・ｾｶﾝﾄﾞｵﾋﾟﾆｵﾝの徹底 | 13 | Ⅲ | |
| | | | (6) 満足度調査の病院運営への反映 | 14 | Ⅲ | |
| | | 1-1-3 診療体制の充実 | (1) 患者動向や 医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実 | 15 | Ⅲ | |
| | | | (2) 多様な専門職の積極的な活用 | 16 | Ⅲ | |
| | | 1-1-4 近隣医療機関等との役割分担・連携 | (1) 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上 | 17 | Ⅳ | |
| | | | (2) 地域連携クリニカルパスの整備普及 | 18 | Ⅲ | |
| | | | (3) 退院後の療養に関する各種情報の提供 | 19 | Ⅳ | |
| | | 1-1-5 重点的に取り組む医療 | (1) 救命救急医療 | 20 | Ⅲ | |
| | | | (2) 心臓血管疾患医療 | 21 | Ⅲ | |
| | | | (3) 母子周産期医療 | 22 | Ⅲ | |
| | | | (4) がん診療拠点 | 23 | Ⅲ | |
| | | | (5) 精神科医療・感染症医療 | 24 | Ⅲ | |
| | | | (6) 緩和ケア | 25 | Ⅲ | |

| 大項目 | 中項目 | | 小項目 | 項目通番 | 自己評価 | 検証結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1－2 調査研究事業 | 1-2-1 調査・臨床研究等推進 | (1) 治験管理事務、治験コーディネーター業務推進のための人材育成、体制強化及び受託件数の増加 | 26 | Ⅲ | |
| | | 1-2-2 診療等の情報活用 | (1) 医療総合情報ｼｽﾃﾑの各種ﾃﾞｰﾀの有効活用 | 27 | Ⅳ | |
| | | | (2) 集積したエビデンスの活用 | 28 | Ⅲ | |
| | | 1-2-3 保健医療情報の提供・発信 | (1) 公開講座、医療相談会等の定期的開催 | 29 | Ⅲ | |
| | | | (2) 保健医療、健康管理等の情報提供 | 30 | Ⅲ | |
| | 1－3 教育研修事業 | 1-3-1 卒後臨床研修等の充実 | (1) 質の高い医療従事者の養成 | 31 | Ⅲ | |
| | | | (2) 後期研修医（レジデント）に対する研修等 | 32 | Ⅲ | |
| | | 1-3-2 看護学生、救急救命士等教育 | (1) 医学生、看護学生の実習受入れ | 33 | Ⅲ | |
| | | | (2) 地域医療従事者への研修の実施及び充実 | 34 | Ⅲ | |
| | 1－4 地域支援事業 | 1-4-1 地域医療への支援 | (1) 地域医療水準の向上 | 35 | Ⅲ | |
| | | | (2) 医師不足、へき地医療機関への人的支援 | 36 | Ⅳ | |
| | | 1-4-2 社会的な要請への協力 | | 37 | Ⅲ | |
| | 1－5 災害等発生時の医療救護 | 1-5-1 医療救護活動の拠点機能 | (1) （医療救護活動拠点機能確保、訓練実施） | 38 | Ⅲ | |
| | | 1-5-2 他県等の医療救護への協力 | (1) 大規模災害発生時のＤＭＡＴの派遣 | 39 | Ⅲ | |
| | | | (2) ＤＭＡＴの質の向上と維持 | 40 | Ⅲ | |
| 2　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組 | 2－1 効率的な業務運営体制の確立 | 2-1-1 簡素で効果的な組織体制の確立 | (1) 効率的かつ効果的な組織体制の構築 | 41 | Ⅲ | |
| | | | (2) 各種業務のＩＴ化の推進 | 42 | Ⅲ | |
| | | | (3) アウトソーシング導入による合理化 | 43 | Ⅲ | |
| | | | (4) 経営効率の高い業務執行体制の確立 | 44 | Ⅲ | |
| | | | (5) 時差出勤制度の導入 | 45 | Ⅲ | |
| | | 2-1-2 診療体制、人員配置の弾力的運用 | (1) 弾力的運用の実施 | 46 | Ⅲ | |
| | | | (2) 効果的な体制による医療の提供 | 47 | Ⅳ | |
| | | | (3) ３法人間人事交流による適正な職員配置 | 48 | Ⅲ | |
| | | 2-1-3 人事評価システムの構築 | | 49 | Ⅲ | |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | | 項目通番 | 自己評価 | 検証結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 2-1-4　事務部門の専門性の向上 | | 50 | Ⅲ | |
| | ２－２<br>業務運営の見直しや効率化による収支改善 | 2-2-1　多様な契約手法の導入 | | 51 | Ⅲ | |
| | | 2-2-2<br>収入の確保 | (1) 効果的な病床管理、医療機器の効率的活用、ＤＰＣの推進 | 52 | Ⅲ | |
| | | | (2) 未収金の発生防止対策等 | 53 | Ⅲ | |
| | | ２－２－３　費用の削減 | | 54 | Ⅲ | |
| ３　予算（人件費の見積含む。）、収支計画及び資金計画 | | | | 55 | Ⅳ | |
| ４　短期借入金の限度額 | | | | － | － | － |
| ５　重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画 | | | | － | － | － |
| ６　剰余金の使途 | | | | － | － | － |
| ７　料金に関する事項　（※年度計画に対応項目なし） | | | | － | － | － |
| ８　その他県の規則で定める業務運営に関する事項 | ８－１<br>職員の就労環境の向上 | (1) （病院全体の勤務環境の改善） | | 56 | Ⅲ | |
| | | (2) （保育所の受け入れ体制の強化） | | 57 | Ⅳ | |
| | | (3) （看護師の就労環境の整備） | | 58 | Ⅲ | |
| | | (4) （健康管理対策及びメンタルヘルス対策の充実） | | 59 | Ⅲ | |
| | ８－２　県及び他の地方独立行政法人との連携に関する事項 | | | 60 | Ⅲ | |
| | ８－３　医療機器・施設整備に関する事項 | | | 61 | Ⅲ | |
| | ８－４　法人が負担する債務の償還に関する事項 | | | 62 | Ⅲ | |

## Ⅳ　項目別の状況

**１　住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するための取組**
**１－１　診療事業**
**１－１－１　より質の高い医療の提供**

| | |
|---|---|
| 中期目標 | ３　住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項<br>３－１　診療事業<br>東濃地域の基幹病院として、近隣の医療機関との役割分担・連携のもと、高度・先進医療、急性期医療及び政策医療等の県民が必要とする医療を提供することを求める。<br>３－１－１　より質の高い医療の提供<br>法人が有する医師、看護師、コメディカルや、先進かつ高度な医療機器といった人的・物的資源を有効に活用し、高度で専門的な医療に取組むことで、県内医療水準の向上に努めること。<br>特に、医師、看護師、コメディカル等の優秀な医療スタッフの確保等に努め、提供する医療水準の維持・向上を図ること。<br>また、個々の患者に最適な医療を選択し、より質の高い医療を提供するため、科学的な根拠に基づく医療の推進、クリニカルパスの導入促進に努めること。<br>さらに、医療事故を未然に防ぎ、患者が安心して治療に専念できる安全・安心な医療と治療環境を提供できるよう、医療安全対策を徹底すること。 |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 | | | | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 | | 評価委員会の検証 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | H22 | H23 | H24 | H25 | | 業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 検証結果 | 検証結果の説明、<br>特筆すべき事項 |
| 01 | （1）高度先進医療機器の計画的な更新・整備<br>ＣＴ（６４・１２８スライス）、３Ｔ　ＭＲＩ、ＰＥＴ／ＣＴ、連続血管撮影装置、超音波診断装置、ＥＳＷＬ、内視鏡、手術用顕微鏡など高度医療機器を整備しているが、老朽化した機器も現存しているため、診療各科の需要に応じて新規購入及び更新を計画的に進める。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （1）高度医療機器の計画的な更新・整備<br>・　高度医療機器について昨年度作成した中期的な整備計画を基に更新・整備を行う。 | （1）高度医療機器の計画的な更新・整備<br>・　放射線機器更新計画に基づき、平成 13 年度に購入し老朽化が進んでいた磁気共鳴画像診断装置（MRI）の更新を図った。<br>・　平成 11 年度に購入し、故障時における一部保守部品の供給停止等、サービスサポート体制が不安定となっていた乳腺X線撮影装置（マンモグラフィ）を更新した。<br>・　更新により、機器の安定稼動が得られるとともに、新たな機能の付加（断層撮影）により従来機器では得られなかった臨床上重要な画像が得られるようになった。<br>・　医療機器整備委員会において各診療科の要望を取りまとめて、費用対効果、需要と医療技術の進歩などを総合的に判断して購入予定機器を選定し、新規購入や更新を計画的に進めた。 | Ⅲ | | |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th rowspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価<br>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th rowspan="2">自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、<br>特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>【更新・整備を実施した機器の稼働状況】<br><table><tr><th>機器名</th><th>整備年度</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>電子内視鏡システム</td><td>H24</td><td>毎日</td><td>毎日</td></tr><tr><td>電気生理記録システム</td><td>H24</td><td>2回／週</td><td>2回／週</td></tr><tr><td>X線デジタル画像撮影装置</td><td>H24</td><td>毎日</td><td>毎日</td></tr><tr><td>磁気共鳴画像診断装置</td><td>H25</td><td>―</td><td>毎日</td></tr><tr><td>乳腺X線撮影装置</td><td>H25</td><td>―</td><td>毎日</td></tr></table>※平成24・25年度に更新装備した主な機器が対象</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>02</td><td>（2）長時間勤務の改善等働きやすい環境の整備<br>職員の負担を軽減するため、職種毎の業務量に見合った人員数を確保し、時間外勤務の縮減に努めるとともに、職務に専念できる環境整備の一環として、院内保育所についてソフト面、ハード面の両面から充実を図り、働きやすい環境の整備及び職員の定着化を図る。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅳ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（2）長時間勤務の改善等働きやすい環境の整備<br>・　医師の業務のさらなる緩和を図るために、計画的な医師事務作業補助者の採用に努め、「２５：１」補助体制加算の早期導入を進める。<br>・　看護師については、夜間専従看護師の採用、部分休業や短時間勤務の推奨により、ライフスタイルに柔軟に対応した勤務体制を整え、必要な人材の確保に努める。<br>・　職務に専念できる職場環境整備の一環として、院内保育所での夜間保育及び病児保育について、保護者の意見を尊重した保育内容の検討を行う。</td><td>（2）長時間勤務の改善等働きやすい環境の整備<br>・　医師事務作業補助者を２４名から２７名に増員し、さらに医師から要望の強かった病棟にも１名を配置して医師の過密業務の軽減を図り、補助体制加算は昨年度の３０：１から２５：１となった。<br>・夜勤専従看護師の配置<br>救命救急センター及び救急外来にかかる夜勤専従看護師（非常勤職員）の制度化を行い、救命救急センターに１名を採用した。<br>また、正規職員においても、職員の意見を十分に汲み取りながら勤務表の作成を行った。<br>・短時間就労制の実施<br>働き手のニーズに合わせ週１回、１日１時間以上の勤務を提案し、週２０時間未満の勤務をしている非常勤職員が１０名在職している。<br>・平成２５年４月から民間会社に保育業務を委託し、夜間保育及び休日保育を開始するとともに、病児保育の利便性を向上させた。<br><br>【夜間保育】<br>・毎週金曜日に対応可能<br>・平成２５年度実績１２回<br>【休日保育】</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th rowspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価<br>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th rowspan="2">自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、<br>特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・１２月３１日～１月３日を除く全ての日に対応可能<br>・平成２５年度実績９２回<br><br>【院内保育所の運営状況】　（各年度末時点）<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>入所者数</td><td>４４人</td><td>３７人</td><td>３６人</td></tr><tr><td>保育士数</td><td>９人</td><td>８人</td><td>委託先にて必要人数を配置</td></tr></table><br>【病児保育利用実績】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>延人数</td><td>１２人</td><td>２０人</td><td>８４人</td></tr></table></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>03</td><td>（３）大学等関係機関との連携や教育研修の充実による優れた医師の養成<br>高度な医療を提供できる医師の養成のため、関連大学や学会における教育研修に積極的に参加させ、院内においてフィードバックできる体制の確立と研修医に対する充実した研修プログラムを実行する。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（３）大学等関係機関との連携や教育研修の充実による優れた医師の養成<br>・　名古屋大学、名古屋市立大学とは、従来どおり関連する各科の医師の教育研修や連携を継続する。<br>・　岐阜県医師確保育成コンソーシアム及び名古屋大学卒後臨床研修・キャリア形成支援センターと連携し、医師としての資質向上を図る。<br>・　卒後臨床研修評価機構による認定施設の取得に向けた取り組みを行う。</td><td>（３）大学等関係機関との連携や教育研修の充実による優れた医師の養成<br>・　医師確保対策として、名古屋大学及び岐阜大学の病院実習生を積極的に受け入れた。<br>【実績】　名古屋大学８名、岐阜大学１名<br>・　岐阜県医師確保育成コンソーシアムの補助金を活用し、外部講師による勉強会の開催や外傷教育研修を実施した。<br>・　卒後臨床研修評価機構による認定施設の取得に向けた取り組みを行った。<br>・　医師としての資質向上を目的として、病院が費用負担し延べ３１６人の医師が学会に参加した。<br>欧州心臓病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器外科学会、日本救急医学会　など<br><br>【海外学会への派遣実績】<br><table><tr><th>派遣用務</th><th>派遣先</th></tr><tr><td>欧州心臓病学会</td><td>オランダ・アムステルダム</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th rowspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価<br>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th rowspan="2">自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、<br>特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>【医師の研修派遣・受入実績人数】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>派遣</td><td>304 人</td><td>302 人</td><td>387 人</td></tr><tr><td>受入</td><td>20 人</td><td>16 人</td><td>65 人</td></tr></table></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>04</td><td>（4）認定看護師や専門看護師の資格取得の促進<br>認定看護師や専門看護師の資格取得のための研修を計画的に実施する。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（4）認定看護師や専門看護師の資格取得の促進<br>・　資格取得のための研修を計画的に実施するなどの支援を行う。<br>「脳卒中リハビテーション認定看護師」<br>「慢性心不全認定看護師」<br>「認知症認定看護師」<br>「糖尿病認定看護師」<br>「がん専門看護師」</td><td>（4）認定看護師や専門看護師の資格取得の促進<br>・　認定看護師の資格取得のための支援をし、「脳卒中リハビリテーション認定看護師」、「慢性心不全認定看護師」の資格を各１名が取得した。<br>・　「糖尿病認定看護師」の資格取得希望者と「認知症認定看護師」の資格取得希望者は研修を修了し、平成２６年度に資格取得試験を受験するため、支援を継続した。<br>・　専門看護師については、「急性・重症看護専門看護師」の分野で１名資格を取得した。<br>・　「がん専門看護師」の資格の取得中の１名について、岐阜県立看護大学で受講できるように勤務上の配慮などの支援を行った。<br><br>【認定看護師・専門看護師数】（各年度末時点）<br><table><tr><th rowspan="2">区分</th><th rowspan="2">分野</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><th>人数</th><th>人数</th><th>人数</th></tr><tr><td rowspan="11">認定</td><td>皮膚・排泄ケア</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>集中ケア</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>緩和ケア</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>がん化学療法看護</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>がん性疼痛看護</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>感染管理</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>新生児集中ケア</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>摂食・嚥下障害看護</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>救急看護</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>慢性心不全看護</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、<br>特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>
<table>
<tr><td rowspan="4"></td><td>脳卒中リハビリテーション看護</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td></tr>
<tr><td>計</td><td>12</td><td>12</td><td>14</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門</td><td>がん看護</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td>急性・救急看護</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td></tr>
<tr><td>合計</td><td></td><td>14</td><td>14</td><td>17</td></tr>
</table>
</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>05</td><td>（5）コメディカルに対する専門研修の実施<br>国、岐阜県等が主催する講習会、研修会の参加支援、また、先進病院への出向研修支援を行い、各種認定資格の取得促進することで専門性を高め、優れた技能・知識を有する職員を養成する。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（5）コメディカルに対する専門研修の実施<br>・　最新の高度医療に対応できる技術・知識を有する職員を養成するため、引き続き厚生労働省、岐阜県等が主催する講習会、研修会への参加や各種認定資格の取得、維持のための支援を行う。<br><br>【薬剤部】<br>＜支援認定資格＞<br>・各種認定薬剤師<br>・専門薬剤師<br>・指導薬剤師<br>＜講習・研修等＞<br>・各種学会、研修会等への参加<br>【中央放射線部】<br>＜支援認定資格＞<br>・マンモグラフィ撮影認定技師<br>・放射線管理士<br>・放射線機器管理士<br>・医用画像情報管理士<br>・臨床実習指導者<br>・他各種モダリティ専門技師<br>＜講習・研修等＞<br>・放射性医薬品取り扱いガイドライン講習<br>・PET研修セミナー<br>・放射線腫瘍学セミナー</td><td>（5）コメディカルに対する専門研修の実施<br>・　最新の高度医療に対応できる技術・知識を有する職員を養成するため、引き続き厚生労働省、岐阜県等が主催する講習会、研修会への参加や各種認定資格の取得、維持のための支援を行った。<br><br>
<table>
<tr><th colspan="2">【薬　剤　部】</th></tr>
<tr><td>医療薬学会指導薬剤師</td><td>更新資格取得1名</td></tr>
<tr><td>ICD</td><td>更新資格取得1名</td></tr>
<tr><td>がん薬物療法認定薬剤師</td><td>更新資格取得1名</td></tr>
<tr><td>緩和薬物療法認定薬剤師</td><td>受験資格取得1名</td></tr>
<tr><td>漢方薬・生薬認定薬剤師</td><td>更新資格取得1名</td></tr>
<tr><td>小児薬物療法認定薬剤師</td><td>受験資格取得1名</td></tr>
<tr><td>NST（栄養サポートチーム）専門療養士</td><td>受験資格取得2名</td></tr>
<tr><td>糖尿病療養指導士</td><td>受験資格取得3名</td></tr>
<tr><td>認定実務実習指導薬剤師</td><td>受験資格取得3名</td></tr>
<tr><td>日本病院薬剤師会生涯研修認定</td><td>各種学会、研修会の参加を支援し、21名が認定申請に必要な単位を取得（薬剤師数24名）</td></tr>
<tr><th colspan="2">【中央放射線部】</th></tr>
<tr><td>マンモグラフィ撮影認定技師</td><td>資格取得　1名</td></tr>
<tr><td>X線CT認定技師</td><td>資格取得　1名</td></tr>
<tr><td>臨床実習指導者</td><td>更新資格取得2名</td></tr>
<tr><td>第1種放射線取扱主任者試験</td><td>合格資格取得　1名</td></tr>
<tr><td>医用画像情報管理士認定</td><td>更新資格取得1名</td></tr>
</table>
</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ・治療専門技師認定機構講習会<br>・日本診療放射線技師学術大会<br><br>【臨床検査科】<br><支援認定資格><br>・細胞検査士<br>・超音波検査士<br>・認定輸血検査技師<br>・感染制御認定臨床微生物検査技師<br>・認定臨床微生物検査技師<br>・認定血液検査技師<br>・各種二級臨床検査士<br>・その他各種学会認定資格<br><講習・研修等><br>・各種行政機関、各種学術団体の主催する学会、研修会等<br>【臨床工学部】<br><講習・研修等><br>・体外循環技術認定士、呼吸療法認定士、透析療法認定士の資格更新のための学会、研修会等<br>【リハビリテーション科】<br><支援認定資格><br>・心臓リハビリテーション指導士<br>・3学会合同呼吸療法認定士<br>・日本糖尿病療養指導士<br><講習・研修等><br>・がんのリハビリテーション関連研修<br>・高次脳機能障害支援事業にともなう、必要な知識、診療に関する研修会<br>・内部障害関連(呼吸、循環、代謝)に関する研修、講習会<br>・手の外科（ハンドセラピー）関連の知識、技術の習得<br>・脳卒中急性期の作業療法に対しての更なる知識の習得 | 放射性医薬品取扱ガイドライン講習 1名参加<br>医療安全教育セミナー 1名参加<br>ＰＥＴ研修セミナー 1名参加<br>治療専門技師認定機構講習会 1名参加<br>医学物理士コース研修 1名参加<br>放射線腫瘍学セミナー 1名参加<br>ストロンチュウム９０治療安全講習会 2名参加<br>精度良くDXAで骨量測定するための講習会 3名参加<br>医学物理コース研修生 1名参加<br>Ａｉ認定放射線技師講習会 1名参加<br>その他 資格維持または最新知識の取得のためのセミナー、学会への参加を支援<br>【臨床検査科】<br>認定血管診療技師 資格取得 2名<br>学会参加 5学会 17名<br>研修会参加 10研修会 12名<br>精度管理報告会参加 2報告会 2名<br>【臨床工学部】<br>透析安全管理責任者 資格取得 2名<br>学会参加 国際学会−2学会1人<br>国内学会−7学会 5人<br>研究会参加 ２９研究会 １０人<br>講習、研修会参加 ２５講習研修会 10人<br>【リハビリテーション科】<br>心臓リハビリテーション指導士 受験資格取得 2名<br>3学会合同呼吸療法認定士 受講資格取得 1名<br>がんのリハビリテーション研修ワークショップ 2チーム（内PT3名 OT1名）参加<br>心臓リハビリ関連学会 7名参加（うち2名発表）<br>ICU等急性期リハ関連研修会 3名参加 | | | |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価<br>業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証<br>検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ・ICU、HCU等急性期リハビリテーション知識、技術の習得<br>・3学会合同呼吸療法認定士、認定講習会、受講資格取得<br>・心臓リハビリテーション指導士受験資格取得<br><br>【栄養管理部】<br><支援認定資格><br>・糖尿病療養指導士<br><講習・研修会等><br>・病態栄養学会<br>・静脈経腸栄養学会<br>・食事療法学会<br>・地域社会振興財団主催管理栄養士研修会<br>・専門資格更新のための学会・研修会への参加<br>・その他栄養関連学会・研修会への参加 | リハビリ関連学会 7名参加（うち2名発表）<br>リハビリ関連研修会 5名参加<br>日本摂食嚥下リハビリテーション学会 1名参加<br>ディサースリア治療技術セミナー 1名参加<br>心臓リハビリテーション指導士資格取得研修 3名参加<br>3学会合同呼吸療法認定士資格取得研修 3名参加<br>【栄養管理部】<br>糖尿病療養指導士 資格取得 2名<br>NST専門療法士 資格取得 2名<br>病態栄養専門士 資格取得 1名<br>日本糖尿病学会 1名参加<br>日本静脈経腸栄養学会 2名参加<br>地域社会福祉財団主催管理栄養士研修会 1名参加<br><br>【コメディカル専門研修の参加人数】 | | | |

| 区分＼年度 | H23 | H24 | H25 |
|---|---|---|---|
| 薬剤師 | 25人 | 24人 | 24人 |
| 臨床検査技師 | 37人 | 64人 | 33人 |
| 放射線技師 | 27人 | 30人 | 33人 |
| 臨床工学技士 | 8人 | 14人 | 18人 |
| リハビリ技師 | 21人 | 30人 | 35人 |
| 管理栄養士 | 7人 | 5人 | 20人 |
| 合計 | 125人 | 167人 | 163人 |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th rowspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価<br>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th rowspan="2">自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、<br>特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td>06</td><td>（6）ＥＢＭの推進<br>各診療科の疾患についてのガイドラインに基づいた診療の確立と院内での治療成績などの集積を充実しＥＢＭ（Evidence Based Medicine の略、科学的根拠に基づいた医療）の実践を推進する。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（6）ＥＢＭの推進<br>・　診療ガイドラインの充実と診療実績の把握を行う。<br>・　クリニカルパスについての実績を検証し、内容の充実を図る。<br>・　クリニカルインディケーターについて精査し、経年的な評価を行う。</td><td>（6）ＥＢＭの推進<br>・　各診療科において診療ガイドラインの充実を進めたことに伴い、ガイドラインに基づいた診療が浸透してきた。<br>・　診療の実情や使用頻度により整理し、クリニカルパスを検証・整理した。<br>クリニカルパスの実数　１９６<br><br>【診療科別クリニカルパスの内訳】<br><table><tr><th>診療科名</th><th>パス数</th></tr><tr><td>産婦人科</td><td>28</td></tr><tr><td>整形外科</td><td>36</td></tr><tr><td>呼吸器科</td><td>17</td></tr><tr><td>外科・消化器外科</td><td>24</td></tr><tr><td>循環器科</td><td>12</td></tr><tr><td>その他</td><td>79</td></tr></table><br>【クリニカルパス種類数・使用数】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H２３</th><th>H２４</th><th>H２５</th></tr><tr><td>種類数</td><td>145 種</td><td>154 種</td><td>144 種</td></tr><tr><td>使用数</td><td>5,702 件</td><td>5,941 件</td><td>6,457 件</td></tr></table><br>・　クリニカルインディケーターについては、平成２４年度に選定した各診療科の実績データを公表し、経年的に評価を行うようにした。</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>07</td><td>（7）医療安全対策の充実<br>医療安全部におけるインシデントレポートの集積分析及び事例の検討、アクシデントに対する迅速な対応を行い、毎月安全管理における検討と年２回の研修会及び各部署における検討会を行い事例及び対策などの共有化を図る。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅳ</td><td>Ⅳ</td><td></td><td>（7）医療安全対策の充実<br>・　医療の質および安全の確保のため、インシデント及びアクシデント案件があった場合は、各部署にてＲＣＡ（根本原因分析）実施を徹底する。<br>・　医療安全部会、医療安全管理委員会などにおいてインシデント、アクシデントレポートの集積及び分析を行い、分析結果や検討内容を全職</td><td>（7）医療安全対策の充実<br>・　各部署での医療安全に対する意識が高まり、インシデント報告数が増加した。<br><br><table><tr><th>年度</th><th>月平均</th></tr><tr><td>H２４</td><td>265 件</td></tr><tr><td>H２５</td><td>289 件</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、<br>特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>員に周知徹底する。<br>・　専従の医療安全管理者、リスクマネージャーの活動を支援し、医療安全に関する活動を充実する。<br>・　医療安全に関する院内研修会（外部講師や職員によるシンポジウム等）を積極的に開催するとともに欠席者に対しても研修内容が伝達されるようにフォローアップを行う。<br>・　昨年度から取り組んでいる患者サポート体制カンファレンスを継続して実施する。</td><td>・　報告されたインシデント事例は、優先順位を考え、カンファレンスを開催し、安全対策の検討と強化を図った。<br>・　アクシデント事例に関しては、ＲＣＡ分析やＳＨＥＬＬ分析を行うことで再発防止に努めた。<br><br>【インシデント・アクシデント件数】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ</td><td>2,642件</td><td>3,169件</td><td>3,473件</td></tr><tr><td>ｱｸｼﾃﾞﾝﾄ</td><td>21件</td><td>17件</td><td>22件</td></tr><tr><td>合計</td><td>H23</td><td>3,186件</td><td>3,495件</td></tr></table><br>・　定期的に開催している医療安全部会、医療安全管理委員会において、共有すべきインシデント事例を取り上げ２～４事例／月を検討し、管理会議や医局会、看護部委員会で注意喚起を行った。<br>・　11 月 24 日～11 月 30 日の医療安全推進週間には、「患者誤認防止、誤薬防止の啓発週間」として入院中の患者 143 名、病院職員 712 名にアンケート調査を実施した。<br>・　医療安全研修会については、全員参加を目標に年２回開催し、延べ９１１人の出席者があった。欠席者には、研修内容を録画したＤＶＤビデオを視聴させた。<br><br>【医療安全研修会開催実績】<br><table><tr><th>開催日</th><th>テーマ</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>9月12日</td><td>患者はなぜ怒る、ｸﾚｰﾑ・暴力の対応</td><td>４８２人</td></tr><tr><td>1月30日</td><td>麻薬についてのお話し</td><td>４２９人</td></tr></table></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th rowspan="2">業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th rowspan="2">自己評価</th><th rowspan="2">検証結果</th><th rowspan="2">検証結果の説明、<br>特筆すべき事項</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr>
<tr><td>08</td><td>（8）院内感染の発生原因の究明及び防止対策の確立のための体制整備<br>感染管理看護師を中心にサーベイランス、コンサルテーション、職員教育等を実施し、院内の感染防止対策に務める。</td><td>Ⅳ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（8）院内感染の発生原因の究明及び防止対策の確立のための体制整備<br>・　入院患者や職員に感染した場合やアウトブレイク時における迅速かつ適切な対応（早期察知、早期介入、調査、分析、指導）を実践する。<br>・　職業感染対策や院内の感染対策の現状を評価し、より効果的な対策につながるようＩＣＴ（Infection Control Team の略、感染防止対策チーム）の活動を充実する。<br>・　感染防止に関する院内研修会（外部講師や職員によるシンポジウム等）を積極的に開催するとともに欠席者に対しても研修内容が伝達されるようにフォローアップを行う。<br>・　他の医療施設や保健所との連携を強化し、地域全体の感染対策の向上に努める。</td><td>（8）院内感染の発生原因の究明及び防止対策の確立のための体制整備<br>・　現場からの患者・職員の感染症発症時の早期察知と報告により、ＩＣＴの早期介入と現場の感染対策の強化・実施により、問題となるような感染事例はなかった。<br>・　院内結核曝露事例は５事例あり、うち２事例に対し接触者健診を実施した。また、潜在性肺結核感染のベースライン把握のため、スタッフを対象にＴスポット検査を開始した。針刺し等の血液暴露事例の報告、ワクチン接種をはじめ職業感染対策について衛生委員会と検討・協働し職員にはＩＣＴ通信を発行（奇数月）し啓蒙を行った。<br>・　委託含む全職員対象に、感染対策教育講演会を年２回実施し、延べ９７６人の出席者があった。欠席者に対し、研修内容をまとめたＩＣＴ通信による書面学習と、録画したＤＶＤビデオを視聴させた。また、委託業者も含めた職種別、レベル別の勉強会・研修会等も開催した。<br>・　感染防止対策加算 1-1 施設カンファレンスは、相互ラウンドを２回実施した。加算 1-2 施設カンファレンスは、東濃保健所長参加の合同カンファレンスを４回実施し、連携の強化を図った。<br><br>【感染対策教育講演会開催実績】<br><table><tr><th>開催日</th><th>テーマ</th><th>参加数</th></tr><tr><td>8 月 19 日・20 日</td><td>結核について</td><td>543 人</td></tr><tr><td>11 月 19 日</td><td>感染対策の重要なポイント</td><td>433 人</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

## １－１－２　患者・住民サービスの向上

| 中期目標 | ３－１－２　患者・住民サービスの向上<br>来院から診察、検査、会計等に至る全てのサービスの待ち時間の改善、快適性及びプライバシー確保に配慮した院内環境の整備、医療情報に関する相談体制の整備・充実など、病院が提供する全てのサービスについて患者の利便性の向上に努めること。<br>また、病院運営に関し、患者のみならず地域住民の意見を取り入れる仕組みを作り、患者・住民サービスの向上を図ること。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価<br>業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証<br>検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 09 | （1）待ち時間及び検査・手術待ちの改善等<br>診療時間帯の延長、検査機械の稼働率向上化、医師等の配置及び手術室の運用の改善等による手術実施体制の再整備により、診療待ち時間の短縮や検査、手術待ちの改善を図る。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （1）　待ち時間及び検査・手術待ちの改善等<br>・　待ち時間調査を実施し、現状を把握する。<br>・　待ち時間の緩和に向けて対応策を引き続き検討する。特に会計計算待ち時間を重点的に分析し、改善を図る。<br>・　医療連携を充実し、逆紹介を円滑に進めることにより外来患者数の縮減に努め、診察予約時間から３０分以内の診療を目指す。<br>・　開業医の訪問活動を継続して実施し、紹介率の向上に努めるとともに、ＣＴ、ＭＲＩなどの検査依頼についても、検査枠の見直し等効率化を検討する。<br>・　各診療科の患者総合案内システム(案内表示盤)に健康情報や癒しの画像などを表示できるように検討する。 | （1）待ち時間及び検査・手術待ちの改善等<br>・　７月に放射線・内視鏡・生理検査、１０～１２月に診療科待ち時間調査を実施し、検証した。<br><br>【平均待ち時間の状況】<br>項目＼年度 / H23 / H24 / H25<br>平均待ち時間 / 23分 / 23分 / 24分<br>※待ち時間は予約時間からの平均遅延時間<br><br>・　今年度から、早朝コンシェルジュ業務を８時から２名を配置した。また、委託業者と連携して積極的な患者案内などを行った結果、患者意見箱に寄せられる窓口業務に関する苦情の割合が前年の８．３%から０%になるとともに、口頭でのクレームが大幅に減少した。<br>・　自動支払機のシステム改修を行い、入院費の支払及び過去の外来診療費の支払ができるようになった。また、窓口の混雑状況を見ながら窓口機能(受付、計算、支払)を適宜変更し、待ち時間の短縮を図った。<br>・　点在する外来駐車場を効率的に運用するため、Ｈ２４年度から実施している駐車場利用者が集中する午前中に、駐車場管理の警備員の増員をし、駐車場入庫待ちによる混雑解消の継続を図った。<br>・　逆紹介を推し進めるため、各診療科の掲示板において、病診連携推進の「お知らせ」を掲示して、紹介状持参の促進と近隣のかかりつけ医との役割分担の違いについて患者への周知の継続を行 | Ⅲ | | |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>った。また、開業医の訪問活動を実施し、紹介率向上に努めた。<br>訪問件数88件　新規登録医数　11件<br>・　開業医への訪問活動を通して得た情報に基づき、昨年作成した診療情報提供書の様式の改良に努めた。<br>・　ＣＴ、ＭＲＩなどの検査枠の見直しをし、さらに開業医への訪問活動に中央放射線部の職員が同行して、ＣＴ、ＭＲＩなどの検査依頼を行った。<br>・　連携予約検査枠の時間延長を行った。また、骨密度検査の利用について、訪問活動で推進を行った。<br><br>【ＣＴ、ＭＲＩ検査件数の比較】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>ＣＴ件数</td><td>25,234件</td><td>26,350件</td><td>27,896件</td></tr><tr><td>ＭＲＩ件数</td><td>7,919件</td><td>8,646件</td><td>8,892件</td></tr></table><br>・　年々患者数の増加に伴い、画像処理及び検査対応者の応援体制を充実させ、患者待ち時間の短縮を図った。<br>・　乳腺撮影と骨密度検査を個々の部屋に設置し、検査待ち時間の短縮を図った。</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td>（２）院内環境の快適性向上<br>病室、待合室、トイレ等を計画的に改修、補修し快適な院内環境を提供するとともに患者のプライバシー確保に配慮した院内環境を整備する。また、治療効果を高めつつ、より快適な入院生活を送れるように栄養管理及び患者の嗜好を配慮した個人対応食を充実させる。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（２）院内環境の快適性向上<br>・　順次整備を進めてきた院内の施設や設備について、維持管理に努めるとともに患者からの改善要望に対しては、その内容を精査した上で、対応する。<br>・　治療効果を高め、より快適な入院生活をおくることができるよう、引き続き献立・食材の見直しを行う。<br>・　化学療法の副作用等により喫食量の低下した患者への個別の聞き取りを実施し、食種を検討して安定した喫食量の確保を目指す。<br>・　栄養不良の疑われる患者に対し、ＮＳＴの早期介入により早期改善を目指す。</td><td>（２）院内環境の快適性向上<br>・　中病棟副玄関から東病棟時間外出入口間の歩道に屋根を整備し、雨天時等における車椅子等を使用した来院者の利便性向上を図った。<br>・　治療効果を高め、より快適な入院生活を送ることができるよう食種や、献立・食材の見直しを行った。<br>①　食思不振により喫食量の低下した患者に対応した「なごみ食」を開始し、喫食量増加に努めた。<br>②　特別食で咀嚼・嚥下の低下した患者に対応した食種を追加した。<br>③　糖尿病学会編食品交換表の改訂にあわせ、糖尿病食のエネルギー比の変更を行った。</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・ 栄養不良が疑われる患者に対し、ＮＳＴの早期介入により栄養状態の改善強化に努めた。また、喫食量の低下した患者へ食事の聞き取り調整を行い、喫食量増加に努めた。<br><br>【喫食量の低下した患者への個別の聞き取り、NST介入件数の対前年度比較】<br><table><tr><th>項目＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>個別聞き取り</td><td>73件/月</td><td>96件/月</td><td>96件/月</td></tr><tr><td>ＮＳＴ介入</td><td>38件/月</td><td>41件/月</td><td>37件/月</td></tr><tr><td>NST新規介入</td><td>11件/月</td><td>14件/月</td><td>16件/月</td></tr></table></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>11</td><td>（3）医療情報に関する相談体制の整備<br>医療費支払いに関する各種福祉制度の活用や転院相談等の医療情報に関する相談を、より受け易くできるような相談体制の整備、充実を図る。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（3）医療情報に関する相談体制の整備<br>・ 地域医療連携センター内の業務をさらに充実強化するため、毎月１回程度、医療連携担当と医療相談担当の情報交換会を開催し、相互の情報共有と問題点の洗い出しを行う。<br>・ 岐阜県ソーシャルワーカー協会東濃支部研修会（情報交換会）を継続していくとともに、この研修会で得られた情報を患者や家族の医療相談に活用する。<br>・ 緩和ケア病棟や精神科病棟を担当する相談員に対して、各種研修会の受講を推進し、知識と技能の強化を図りながら、より良いケアの提供を目指すとともに、転退院調整や各種相談業務への対応を強化する。<br>・ がん患者サロンを活用し、がん患者及びその家族に対し相談を行う。</td><td>（3）医療情報に関する相談体制の整備<br>・ 地域医療連携センター内の業務をさらに充実強化するため、毎月１回程度、医療連携担当と医療相談担当の情報交換会を開催し、相互の情報共有と問題点の洗い出しを行った。<br>・ 患者や家族への医療相談の充実のため、専門知識の学習会や新施設の視察を通して相談員相互の資質向上に努めた。<br>・ 岐阜県ソーシャルワーカー協会東濃支部研修会（情報交換会）参加実績６回<br>・ 緩和ケア病棟担当相談員の研修会受講　４回<br>・ がん患者サロンを活用し、がん患者及びその家族に対し相談を行った。<br><br>【相談件数】<br><table><tr><th>項目＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>医療相談件数</td><td>7,921件</td><td>10,199件</td><td>11,186件</td></tr><tr><td>がんサロン相談件数</td><td>131件</td><td>168件</td><td>140件</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td>12</td><td>（4）患者中心の医療の提供<br>患者の権利（安全、平等で最善の医療、情報の開示を受け、自己決定できるなど）の保証と職員への周知、医療者としての倫理観の確立に努める。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（4）患者中心の医療の提供<br>・ 患者サポート体制カンファレンスなどを通じ患者からの要望等を把握・分析し、患者の権利の保証に努める。</td><td>（4）患者中心の医療の提供<br>・ 医療安全研修会、感染対策教育講演会の内容を録画し、全職員が研修を受講できるように欠席者には視聴させることを取り組んだ。<br>・ 患者サポートカンファレンスを毎週１回開催して、医療相談、クレーム事例など患者からの意見・要望を把握し、医療安全活動と合わせて、患者の権利の保障について検討した。<br>開催 ４８回 検討 ３７件<br>・ 患者や家族に治療に対する理解を深めてもらうことを目的に、ＮＰＯ法人「医療の質に関する研究会」から図書などの寄付を受け、平成２５年４月に患者図書室「ぬくた～らいぶらり」を開設した。（平成２５年度利用者９，６０４人）<br><br>【カルテ開示請求件数・開示件数】<table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>請求件数</td><td>３４件</td><td>６２件</td><td>６５件</td></tr><tr><td>開示件数</td><td>３４件</td><td>６１件</td><td>６５件</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>13</td><td>（5）ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞ・ｺﾝｾﾝﾄの徹底、ｾｶﾝﾄﾞｵﾋﾟﾆｵﾝの推進<br>説明と同意について院内での方針を明文化し、全職員にその意義を周知するとともにセカンドオピニオンについて院内や病院のホームページに掲示し、医療連携室を窓口として一元的に対応する。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（5）インフォームドコンセント・セカンドオピニオンの徹底<br>・ 電子カルテに院内共通のインフォームドコンセント文書様式を作成し、説明者、説明を受けた人、立会人など全員の署名が入った記録を書面で残すシステムを整える。<br>・ セカンドオピニオンについて、院内や病院のホームページに掲示し、相談者からの申し出には、医療連携室を窓口として一元的に対応する。また、がんの種類別に医師を選任し、相談に応じる。</td><td>（5）インフォームドコンセント・セカンドオピニオンの徹底<br>・ 電子カルテに院内共通のインフォームドコンセント文書様式を作成し、説明者、説明を受けた人、立会人など全員の署名が入った記録を書面で残すシステムを構築した。<br>・ セカンドオピニオンについては、院内や病院のホームページに案内掲示し、相談者からの申し出には、医療連携室を窓口として一元的に対応をした。また、がんの種類別に医師を選任し、相談に応じた。<br>【セカンドオピニオン実施件数】<table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>外来受入</td><td>１１件</td><td>１２件</td><td>１件</td></tr><tr><td>他院紹介</td><td>７４件</td><td>６９件</td><td>５４件</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | （6）患者や周辺住民を対象とした病院運営に関する満足度調査の病院運営への反映<br>地域住民等と病院とで構成する「多治見病院運営協議会」を定期的に開催し、地域住民のニーズを把握し、病院運営に反映させる。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （6）患者や周辺住民を対象とした病院運営に関する満足度調査の病院運営への反映<br>・ 地域住民等と病院とで構成する「多治見病院運営協議会」を開催し、地域住民のニーズを把握する。<br>・ 外来及び入院患者を対象とした患者満足度調査を引き続き実施する。<br>・ 収集した患者や地域住民からのニーズについては、積極的に病院運営に反映させる。 | （6）患者や周辺住民を対象とした病院運営に関する満足度調査の病院運営への反映<br>・ 病院運営協議会を開催し、看護師確保対策、近隣の医療機関との機能分化、消費税増税による使用料及び手数料の改正などについて意見交換を行った。<br>H26.3.7 議題<br>・看護師確保対策について<br>・病院機能分化について<br>・使用料及び手数料の改正について<br>・患者図書室「ぬくた～らいぶらり」<br>・各種イベントの開催について<br>・ 外来及び入院患者を対象とした患者満足度調査を平成２６年１月に実施した結果、外来・入院とも評価が向上した。<br>外来 H24：74.90 → H25：83.70<br>入院 H24：84.93 → H25：88.24<br>・ また、調査結果を関係部署に通知し、業務改善の検討等に活用した。 | Ⅲ | | |

**１－１－３ 診療体制の充実**

| 中期目標 | ３－１－３ 診療体制の充実<br>医療需要の質的・量的変化や新たな医療課題に適切に対応するため、患者動向や医療需要の変化に即して診療部門の充実や見直し、若しくは専門外来の設置や充実など診療体制の整備・充実を図ること。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | （1）患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実<br>患者動向や周辺医療機関の状況などに応じ、地域 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （1）患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実<br>・ 医療連携室、医療相談室の連携を強化し、患者 | （1）患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実<br>・ 地域医療支援病院として、診療所とのタイムリ | Ⅲ | | |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td>医療支援病院として医療資源の活用を図れるように医療連携室の充実と診療体制の整備を図る。</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>動向や地域の医療機関の状況把握・データ分析、地域連携クリニカルパスの運用、入院初期段階からの転院・退院調整等を充実する。<br>・　近隣病院の診療体制を把握し、効率的な病病連携を推進する。<br>・　専門性、特殊性の高い専門外来の設置について診療科と協議する。</td><td>ーな連携を推進するため、紹介状の返書管理を徹底し、未作成の医師に対する督促を行った。<br>・　多治見市民病院と救急体制や診療体制の役割分担について検討を行った。<br>・　入院初期段階からの転院・退院調整等を促進することができた。<br><br>【紹介患者のうち医療連携予約の割合】<table><tr><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>４９．８％</td><td>５１．９％</td><td>５４．０％</td></tr></table><br>・　総合案内やポスターの掲示、配布用パンフレットを活用し、専門外来を周知してもらうことを継続した。<br>・　各分野間の連携を強化しながら、看護専門外来の活動を継続した。<br><br>【平成２５年度看護専門外来の利用状況】<table><tr><th>専門外来名</th><th>件数</th></tr><tr><td>がん相談外来</td><td>１２０件</td></tr><tr><td>リンパ浮腫相談外来</td><td>９件</td></tr><tr><td>ストーマケア相談外来</td><td>３５８件</td></tr><tr><td>糖尿病フットケア外来</td><td>２０件</td></tr><tr><td>栄養支援外来</td><td>２０件</td></tr><tr><td>計</td><td>５２７件</td></tr></table></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>16</td><td>（2）多様な専門職の積極的な活用<br>高度な専門性を有する職員を外部から登用するにあたり、その専門性に適した処遇が可能となる人事給与制度を構築する。さらに高度な専門性を有する職員が定年を迎えた場合の再雇用制度も構築する。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（2）多様な専門職の積極的な活用<br>・　平成２３年度に構築した人事給与制度や再雇用制度等を基に、必要な職員の確保に努める。</td><td>（2）多様な専門職の積極的な活用<br>・　病院に必要とされる専門性や能力を有した職員を確保するため、診療情報管理士１名の採用と職員２名の同資格取得により、年度末で診療情報管理士は７名となった。<br>・　さらに、職員５名の診療情報管理士資格取得に向けて受講を開始したので支援をした。<br>・　定年を迎えた職員については、希望者全員を再雇用することとしているが、退職する職員が管理</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 職で、組織にとって極めて有為な人材の場合には、非常勤の管理職員として再雇用できるよう規程を整備した。 | | | |

## １－１－４　近隣の医療機関等との役割分担及び連携

| | |
|---|---|
| 中期目標 | ３－１－４　近隣の医療機関等との役割分担及び連携<br>近隣の医療機関等との役割分担を明確にするとともに病病連携・病診連携を一層推進し、地域の実情に応じて東濃地域の基幹病院としての機能を引き続き発揮し、県民が求める医療を実施すること。<br>さらに、退院後の療養に関する各種情報を提供することにより、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供の促進を図ること。 |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | （1）近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上<br>近隣の医療機関との連携を強化し、地域医療支援病院としての要件である紹介率４０%以上、逆紹介率６０%以上の確保をはかるとともに、当院機器の共同利用、開放病床の普及を図る。近隣の医療機関がかかりつけ医としての役割を担うこと及び当院が二次医療病院であることを住民や地域医療機関に周知し、紹介率、逆紹介率のさらなる向上に努める。 | Ⅲ | Ⅳ | Ⅳ | | （1）近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上<br>・　外来待ち合いスペースに設置してある「医療連携登録医情報コーナー」を活用し、登録医の情報を提供するとともに、登録医等への訪問活動を実施する。<br>・　当院が急性期病院であることを地域の医療機関や住民に周知することにより、紹介率６０%、逆紹介率７０%以上の恒常的な確保を目指す。<br>・　近隣病院の診療体制を把握し、効率的な病病連携を推進する。<br>・　高度医療機器、開放病床の利用について医療連携登録医等の関係機関への訪問活動等によりＰＲを行い利用拡大に努める。 | （1）近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上<br>・　近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化により、紹介率が向上した。<br>・　平成２５年度の紹介率については、対前年比で４．３%増と大きく増え、紹介患者の実件数も、１，１８０件の増加となった。<br><br>【紹介率・逆紹介率】<br>区分＼年度 / H23 / H24 / H25<br>紹介率 / 62.7% / 62.6% / 65.3%<br>紹介実件数 / 17,215件 / 18,053件 / 19,233件<br>逆紹介率 / 83.8% / 82.8% / 80.8%<br>逆紹介実件数 / 20,842件 / 21,023件 / 20,698件<br><br>・　ＣＴ、ＭＲＩなどの検査枠の見直しをし、さらに開業医への訪問活動に中央放射線部の職員が同行して、ＣＴ、ＭＲＩなどの検査依頼を行った。 | Ⅳ | | |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・　高度医療機器予約数については、増加となった。高度医療機器の予約状況の分析を行い、さらなる利便性の向上を図り、連携病院の医師が利用しやすい環境づくりを行った。<br>【高度医療機器利用の年度比較】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>CT</td><td>610件</td><td>534件</td><td>582件</td></tr><tr><td>MRI</td><td>548件</td><td>478件</td><td>537件</td></tr></table>・　開放病床の利用に関しても、かかりつけ医の意見を聴取しながら、さらなる利便性の向上を目指した結果、昨年度の９件から３４件と増加した。<br>【開放型病床利用の年度比較】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>医科</td><td>4件</td><td>0件</td><td>14件</td></tr><tr><td>歯科</td><td>10件</td><td>9件</td><td>20件</td></tr></table></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>18</td><td>（2）地域連携クリニカルパスの整備普及<br>すでに進行中の脳卒中、大腿骨頚部骨折連携パスのさらなる改善、充実を目指す。５大がん、生活習慣などについて連携パスの作成、普及に努める。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（2）地域連携クリニカルパスの整備普及<br>・　地域連携クリニカルパス（大腿骨頚部骨折、脳卒中、５大がん、狭心症・心筋梗塞、糖尿病）の運用促進のため、地域医療連携推進協議会や医療連携講演会を通じ、医師会、行政機関等へ理解と協力を求めていく。<br>・　連携パスコーディネーター等を中心に、地域連携クリニカルパスの運用促進に向け院内外に対するＰＲ活動を重点的に行う。また、パス運用中患者のデータ管理や、適宜運用マニュアル等の見直しを行い、円滑な運用を図る。</td><td>（2）地域連携クリニカルパスの整備普及等<br>・　地域連携クリニカルパスの運用促進のため、地域医療連携推進協議会や医療連携講演会を通じ、運用促進のため医師会、行政機関等へ理解と協力を求めた。<br>・　大腿骨頚部骨折、脳卒中パスに関する運用上の問題点や要望等を把握するため、パス合同委員会を実施した。<br>大腿骨頚部骨折、脳卒中パス合同委員会<br>実施日　6/13、10/24、2/28<br>委員　中津川市民病院・土岐市立総合病院<br>【地域連携パス運用実績】<br><table><tr><th>パス名＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>大腿骨頚部骨折</td><td>79件</td><td>80件</td><td>103件</td></tr><tr><td>脳卒中</td><td>321件</td><td>305件</td><td>280件</td></tr><tr><td>5大がん</td><td>4件</td><td>5件</td><td>9件</td></tr><tr><td>狭心症・心筋梗塞</td><td>10件</td><td>84件</td><td>98件</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>
<table>
<tr><td>糖尿病</td><td>－件</td><td>5件</td><td>2件</td></tr>
</table>
・　連携パスコーディネーターを中心に、円滑にパスが運用できるよう、各種マニュアルや様式の見直しに取り組むとともに、院内スタッフへの周知や、医師会等を通じ運用促進を行った。また、連携パスコーディネーターと訪問活動を行いパスについて説明を行った。<br>【共同指導・連携指導の実績】
<table>
<tr><th>項目＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr>
<tr><td>退院時共同指導実績</td><td>34件</td><td>85件</td><td>184件</td></tr>
<tr><td>介護支援連携指導</td><td>197件</td><td>266件</td><td>247件</td></tr>
</table>
</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>19</td><td>（3）地域の介護・福祉機関など退院後の療養に関する各種情報の提供<br>退院調整担当師長及び医療相談室を中心に近隣の医療機関、介護・福祉機関との連携に努める。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅳ</td><td></td><td>（3）地域の介護・福祉機関など退院後の療養に関する各種情報の提供<br>・　医療相談室会の定例開催などにより退院調整看護師と、医療相談員との緊密な連携を強化し、退院支援の充実を図る。<br>・　退院前に医師や地域のケアマネージャーを交えた合同カンファレンスを開催し、地域との連携に努める。</td><td>（3）地域の介護・福祉機関など退院後の療養に関する各種情報の提供<br>・　医療相談室会を１週間に１度行うよう定例化したことで退院調整看護師・各相談員が情報を共有し、連携を強化できた。<br>・　退院前に医師、看護師、地域のケアマネージャーを交えた合同カンファレンスを開催し、地域との連携を強化するとともに、安全・安楽に在宅療養できるよう支援を行った。<br>【合同カンファレンスの実績】
<table>
<tr><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr>
<tr><td>２３１件</td><td>３５１件</td><td>４３１件</td></tr>
</table>
</td><td>Ⅳ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

**１－１－５　重点的に取組む医療**

| 中期目標 | ３－１－５　重点的に取組む医療<br>高度・先進医療、急性期医療及び政策医療といった他の医療機関においては実施が困難ではあるが県民が必要とする医療を、岐阜県立多治見病院として重点的に実施すること。<br>特に、「救命救急医療」、「急性期医療」、「母子周産期医療」、「がん診療拠点」など高度で先進的な医療を提供するとともに、「精神科医療」、「感染症医療」など政策医療を提供すること。 |
|---|---|

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td>20</td><td>（1）救命救急医療<br>救命救急センターと各診療科の緊密な連携による２４時間を通しての受け入れ体制をさらに充実する。<br>また、ドクターカーなどを活用して先進的な地域救急システムの構築に取り組む。</td><td>Ⅳ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（1）救命救急医療<br>・ 救命救急センターと各診療科の緊密な連携により、引き続き受け入れ体制の維持及びさらなる充実に努める。<br>・ ドクターカーの実績を検証し、より効率的な運用に努める。</td><td>（1）救命救急医療<br>・ 近隣の医療機関との役割分担の推進、救命救急センターと各診療科の連携により、ほぼ全ての救急車を受け入れ、地域の要望に応えた。<br><br>【救命救急医療受入実績（延患者数及び病床利用率）】<table><tr><th>年度</th><th colspan="2">H23</th><th colspan="2">H24</th><th colspan="2">H25</th></tr><tr><th>項目</th><th>延患者数</th><th>病床利用率</th><th>延患者数</th><th>病床利用率</th><th>延患者数</th><th>病床利用率</th></tr><tr><td>ICU</td><td>1,491</td><td>50.9%</td><td>1,453</td><td>49.8%</td><td>1,690</td><td>57.9%</td></tr><tr><td>CCU</td><td>816</td><td>74.3%</td><td>859</td><td>78.4%</td><td>878</td><td>80.2%</td></tr><tr><td>HCU</td><td>2,173</td><td>66.0%</td><td>2,135</td><td>65.0%</td><td>2,089</td><td>63.6%</td></tr><tr><td>合計</td><td>4,480</td><td>61.2%</td><td>4,447</td><td>60.9%</td><td>4,657</td><td>63.8%</td></tr></table>【救急車受入台数】<table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>受入台数</td><td>4,620 台</td><td>4,368 台</td><td>4,443 台</td></tr><tr><td>一日平均台数</td><td>12.6 台</td><td>12.0 台</td><td>12.2 台</td></tr></table>・ ドクターカーについては、担当スタッフの減少により定期運行業務を停止し緊急要請には対応を行っているが、要請は０件だった。<br>【ドクターカー稼働実績】<table><tr><th>項目＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>出動件数</td><td>421 件</td><td>251 件</td><td>0 件</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>21</td><td>（2）心臓血管疾患医療<br>循環器内科、心臓血管外科および救命救急センターが連携し、専門的医療を提供する体制の充実を図る。<br>さらに病病連携など地域医療機関との関係をいっそう深める。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅱ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（2）心臓血管疾患医療<br>・ 急性期心臓疾患血管疾患に対応するため、２４時間体制で医師を待機させる。<br>・ 狭心症・心筋梗塞地域連携クリニカルパスの運用の拡大、充実を図る。</td><td>（2）心臓血管疾患医療<br>・ 常勤外科医師数が減少する中、大学病院の全面的な支援を受け、必要な診療体制を維持した。<br><br>【心臓血管手術症例数】<table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>虚血性心疾患</td><td>２０</td><td>１２</td><td>２６</td></tr><tr><td>弁膜症</td><td>２９</td><td>３２</td><td>２２</td></tr><tr><td>大動脈</td><td>１４</td><td>４</td><td>１４</td></tr><tr><td>その他</td><td>２１</td><td>２９</td><td>１８</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>
<table>
<tr><td>合　計</td><td>８４</td><td>７７</td><td>８０</td></tr>
</table>
【手術・検査件数】
<table>
<tr><th>区分＼年</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr>
<tr><td>心カテ</td><td>８４９</td><td>９９９</td><td>９８９</td></tr>
<tr><td>ＰＣＩ※</td><td>３７４</td><td>３８７</td><td>３９８</td></tr>
</table>
※PCI：冠動脈形成術<br><br>
【循環器系】
<table>
<tr><th>区分＼年</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝ</td><td>２９</td><td>４０</td><td>６３</td></tr>
<tr><td>ＰＭＩ※</td><td>６２</td><td>６６</td><td>５３</td></tr>
<tr><td>ＩＣＤ※</td><td>１１</td><td>９</td><td>５</td></tr>
</table>
※ＰＭＩ：ペースメーカー埋込<br>
ＩＣＤ：植え込み型除細動器<br><br>
・　狭心症・心筋梗塞地域連携パスの症例数を増やし、円滑に運用した。<br>
【狭心症・心筋梗塞パス運用実績】
<table>
<tr><th>項目＼年度</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr>
<tr><td>パス運用件数</td><td>８４件</td><td>９８件</td></tr>
<tr><td>登録医師数</td><td>５７名</td><td>６５名</td></tr>
</table>
・　パスコーディネーターよる予約管理、統計処理、患者への説明の充実等に取り組んだ結果、件数が飛躍的に増大した。</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>22</td><td>（３）母子周産期医療<br>地域周産期母子医療センターとして二次診療の24時間を通しての受け入れ体制を維持するため、スタッフの増員、労働環境の向上に努める。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（３）母子周産期医療<br>・　地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠や分娩に対し、２４時間対応出来る体制を継続する。また、現在の診療体制を維持、充実させるために、今後も継続して医師、助産師の確保、増員に努める。</td><td>（３）母子周産期医療<br>・　地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠や分娩に対し、24時間対応できる体制を維持確保した。現在の診療体制を維持、充実させるために継続して医師、助産師の確保、増員に努めた結果、新たに後期研修医１名、助産師２名を採用することができた。</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th rowspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価<br>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th rowspan="2">自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>【周産期母子医療センターの主な実績】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td colspan="2">分娩件数</td><td>462件</td><td>457件</td><td>461件</td></tr><tr><td rowspan="3">年間入院者数</td><td>NICU</td><td>249名</td><td>248名</td><td>253名</td></tr><tr><td>GCU</td><td>421名</td><td>462名</td><td>449名</td></tr><tr><td>産科</td><td>651名</td><td>593名</td><td>703名</td></tr><tr><td colspan="2">母胎搬送件数</td><td>61件</td><td>58件</td><td>75件</td></tr><tr><td colspan="2">新生児搬送件数</td><td>72件</td><td>83件</td><td>110件</td></tr></table></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>23</td><td>（4）がん診療拠点<br>地域がん診療拠点病院として地域の医療従事者を含めた研修に積極的に取り組む。がん連携パスなどによって地域連携を推進し、がん診療の均てん化を図る。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅳ</td><td></td><td>（4）がん診療拠点<br>・　高精度放射線治療システム（ノバリスＴｘ）の本格運用を開始する。<br>・　昨年度、運用を開始した県内統一のがん地域連携クリニカルパスについて、運用の拡大を図る。<br>・　がん治療に関する臨床指標（クリニカルインディケーター）を整備・充実する。</td><td>（4）がん診療拠点<br>・　高精度放射線治療システム（ノバリスＴｘ）の担当する医療スタッフのスキルアップ支援や地域医療従事者等へのＰＲ活動を行い、４月に本格稼働を行った。<br>患者数　１５４人（延べ　3,493 件）<br><br>・　県内統一のがん地域連携クリニカルパスについて、地域医療機関への運用推進を行った。<br>・　院内外の講演会や研修会において、がん治療に関するテーマを積極的に取り上げ、情報発信を行った。<br>【がん患者（入院）等の状況】<br><table><tr><th>項目＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>患者数</td><td>1,274 人</td><td>1,620 人</td><td>2,338 人</td></tr><tr><td>手術件数</td><td>1,025 件</td><td>1,064 件</td><td>1,159 件</td></tr><tr><td>化学療法件数</td><td>779 件</td><td>979 件</td><td>1,012 件</td></tr><tr><td>放射線施行回数</td><td>3,177 件</td><td>3,535 件</td><td>3,115 件</td></tr></table><br>・パスコーディネーターによるパス対象者の抽出し、医師への照会を行いながらパス適用者拡大に取り組んだ。<br>がんパス件数<br>平成 24 年度　5 件<br>平成 25 年度　9 件</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th rowspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価<br>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th rowspan="2">自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td>24</td><td>（5）精神科医療・感染症医療<br>急性期総合病院に併設した特徴を生かし、救急患者や他の医療機関で対応の困難な患者の治療を行える体制の充実を図る。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅳ</td><td>Ⅳ</td><td></td><td>（5）精神科医療・感染症医療<br>・ 結核、感染症病棟について引き続き、受け入れ体制を維持する。<br>・ 精神科病棟の実績を検証し、より良い運用に努める。<br>・ 精神、結核医療について院内外の理解を深めるための各種研修、啓蒙活動を行う。</td><td>（5）精神科医療・感染症医療<br>・ 結核治療中の精神病状を呈した患者の受け入れを行った。今後も引き続き体制維持をした。<br>・ 行動制限最小化委員会を毎月開催し、患者の病状改善、行動制限の状況の適切性及び行動制限最小化のための検討を行った。<br>・ ＮＨＫ名古屋放送局の番組ナビゲーション「心を救って命を守れ ～精神科“連携医療”の可能性～」にて、当院精神科部長が出演し、総合病院の救急の現場などに精神科の医師が参加する連携医療の可能性と課題の啓蒙を行った。<br>・ 当院医師及び外部講師による結核を含めた感染症対策の研修会を、院内職員及び院外医療関係機関を対象に２回実施した。<br>8 月 19･20 日 参加 456 人<br>11 月 19 日 参加 421 人<br>・ ＩＴＣ通信を隔月発行し、院内感染防止などの啓蒙を行った。<br>【患者の受け入れ実績】<br><table><tr><th>病床＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>結核、感染症</td><td>2,358 人</td><td>1,933 人</td><td>2,283 人</td></tr><tr><td>精神科</td><td>－人</td><td>5,400 人</td><td>7,274 人</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>25</td><td>（6）緩和ケア<br>緩和ケア認定看護師、がん疼痛認定看護師を中心に、地域の医療機関と連携した緩和ケアを提供していく。</td><td>Ⅳ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（6）緩和ケア<br>・ 緩和ケア病棟入院患者の積極的な受入れに努め、入院患者の増加を図る。<br>・ 在宅緩和ケア体制構築のため、講演会、研修会、勉強会を通じ、地域全体の医療従事者のスキルアップを図るとともに診療所・訪問看護ステーション・ケアマネジャーなどとの緊密な連携を推進する。</td><td>（6）緩和ケア<br>・ 緩和ケア病棟入院患者の積極的な受入れに努め、入院患者のさらなる増加を図った。<br>【緩和ケアの患者動向】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>3,777 人</td><td>3,981 人</td><td>4,077 人</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>101 人</td><td>138 人</td><td>132 人</td></tr></table><br>・ 在宅緩和ケア体制構築のため、講演会、研修会、勉強会を通じ、地域全体の医療従事者のスキルアップを図るとともに診療所・訪問看護ステーション・ケアマネジャーなどとの緊密な連携を推進し</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | た。<br>緩和ケア市民公開講座　6/29<br>緩和ケア講演会　5/16、11/14<br>緩和ケア研修会（医師対象）　9/7、9/8<br>緩和ケア勉強会<br>4/11、7/11、8/8、10/10、12/12、1/9、2/7、3/13 の全８回<br>東部地域緩和ケア研究会　6/15, 11/16 | | | |

**１　住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するための取組**
**１－２　調査研究事業**
**１－２－１　調査及び臨床研究等の推進**

中期目標

３－２　調査研究事業
３－２－１　調査及び臨床研究等の推進
高度・先進医療の各分野において、疫学調査や診断技法・治療法の開発、臨床応用のための研究を推進すること。
県及び東濃地域の医療の水準の向上に寄与する観点から、大学等の研究機関や企業との共同研究などを促進すること。

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | （1）治験や調査研究事業に積極的に参画できるように治験管理事務、治験コーディネーター業務を推進するための人材を育成し体制の強化、受託件数の増加を図る。<br>平成２０年度実績　１件<br>平成２１年度見込　１件<br>平成２６年度に向け院内の体制を強化し、受託件数の増加に努める。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | ・　医薬品開発業務受託機関（ＣＲＯ）からの治験情報の収集に努めるとともに、医師に対する治験管理部門や治験コーディネーター等による支援を充実し、受託件数の増加を図る。<br>・　大学等の関係機関と連携し、各種臨床研究を実施する。 | （1）治験管理部門が中心となり、治験募集と担当診療科調整の支援を行うため、医薬品開発業務受託機関から照会のあった案件について、該当医師に情報提供を行った。（平成２５年度実績：３０件）<br>【治験件数】<br>区分＼年度 / Ｈ２３ / Ｈ２４ / Ｈ２５<br>治験実施件数 / １件 / １件 / １件<br>治験症例件数 / ０件 / ０件 / １３件<br>受託研究件数 / １件 / １件 / １件 | Ⅲ | | |

## １－２－２　診療等の情報の活用

| 中期目標 | ３－２－２　診療等の情報の活用<br>電子カルテシステムを中心とする医療総合情報システムをより有効に活用し、診療等で得た情報を岐阜県立多治見病院で提供する医療の質の向上に活用するとともに、他の医療機関への情報提供を行うこと。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 | | | | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 | | 評価委員会の検証 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | H22 | H23 | H24 | H25 | | 業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
| 27 | （1）医療総合情報システムに蓄積された各種医療データの有効活用<br>医療情報システムに蓄積された各種医療データを分析し、医療情報として提供することにより院内の医療従事者の総合的なレベルアップを図る。<br>また、その情報を地域の医療機関へ提供することにより、地域医療の活性化を図るための仕組みづくりを検討する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅳ | | （1）医療総合情報システムに蓄積された各種医療データの有効活用<br>・　ＤＰＣに関わる係数や要件等について分析、検証、他病院との比較を行うとともに、当院の実態を把握し、係数確保及び診療機能の向上を図る。<br>・　次回診療報酬改定に向けた対策を検討するとともに、地域における当院のあり方について、将来に向けた検討の材料とする。<br>・　クリニカルインディケーターや厚生労働省のＤＰＣ評価分科会において検討されている病院指標の公表を行い、診療情報の公開、透明化を図る。<br>・　診療情報管理士を養成するため、資格取得のための通信教育を新たに受講させる。通信教育の受講料等を病院が負担し、資格取得の支援を行う。<br>・　医療連携関連データ（紹介・逆紹介状況、高度医療機器・開放型病床利用状況等）について地域医療連携推進協議会等を通じ、医師会をはじめとする医療関係機関、行政機関と情報を共有し、医療機関ごとの役割の明確化や地域連携クリニカルパスの活用等により、医療連携の推進を図る。 | （1）医療総合情報システムに蓄積された各種医療データの有効活用<br>・　平均在院日数、入院収益、診療単価、手術件数などの関連について分析を行い、毎月実績を委員会へ報告をした。特に、在院日数短縮、手術件数の確保、新規入院患者の増加が重要である点について実績を報告した。また、ＤＰＣⅡ群要件の一つである手術指数について状況分析を行い、当院状況を毎月報告した。<br>・　ＤＰＣ評価分科会における項目決定が遅れており、国指定項目での公表はまだしていないが、病院独自項目としてクリニカルインディケーターの公開をＨＰ上で行った。<br>・　診療情報管理士資格取得のため、職員５名が受講の開始をしたので支援をした。なお、職員２名が同資格取得により、年度末で診療情報管理士は７名となった。<br>・　医師会、歯科医師会、薬剤師会、行政機関等の代表者を集め、４半期に１度のペースで地域医療連携推進協議会を開催し、紹介・逆紹介、高度医療機器利用、開放型病床利用等の各種データを提供し、急性期病院と開業医、他の医療機関との地域における役割、医療資源の有効活用について検討を重ねた。<br><br>【地域医療連携推進協議会開催実績】<br>第１回（5/24）、第２回（8/29）、第３回（12/10）、第４回（3/11） | Ⅳ | | |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | （2）集積したエビデンスのカンファレンス、臨床研修、臨床研究等への活用<br>集積したエビデンスをカンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用するため、診療録管理体制の充実を図り、院内診療データを集積整理する。多職種による合同カンファレンスなどにより診療内容を共有化し、治療成績などの公表を推進する。また、一部を他の医療機関へ情報提供する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （2）集積したエビデンスのカンファレンス、臨床研修、臨床研究等への活用<br>・ 診療ガイドラインに基づいた治療を行なっていく。<br>・ 問題症例はカンファレンスにおいて、集積したエビデンスに基づいた評価、検討を行い、よりよい治療を目指す。<br>・ 学会などが主導する疾患別登録事業、がん登録事業に参加し、情報提供を行う。<br>・ 年報やホームページなどで診療科の治療実績を公表する。 | （2）集積したエビデンスのカンファレンス、臨床研修、臨床研究等への活用<br>・ ガイドラインに基づいた治療を行った。各々の症例に関してはカンファレンスで集積したエビデンスに基づき評価を行い成績向上に努めた。<br>・ 学会などが主導する疾患別登録事業、がん登録事業に参加し、情報の提供を行った。<br>・ 年報やホームページで診療科の治療実績を公表した。<br>・ クリニカルインディケーターについて、平成２４年度に選定した各診療科の実績データを公表し、経年的に評価を行うようにした。 | Ⅲ | | |

## １－２－３　保健医療情報の提供・発信

| 中期目標 | ３－２－３　保健医療情報の提供・発信<br>県民の健康意識の醸成を図るため、専門医療情報など病院が有する保健医療情報を、県民を対象とした公開講座やホームページなどにより情報発信を行うこと。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 29 | （1）公開講座、医療相談会等の定期的開催<br>一般市民向けの公開講座や医療に関する相談会を定期的に開催し、保健医療・各種福祉制度に関する情報の提供や発信を行う。<br>○市民公開講座<br>平成２０年度実績　１件<br>脳卒中について（参加者１３７名）<br>平成２１年度見込　１件<br>骨粗しょう症について（参加者１３２名）<br>今後も年一回以上、より市民の関心度が高いテーマを厳選し、開催する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （1）公開講座、医療相談会等の定期的開催<br>・ 一般市民向けの公開講座を開催し、医療に対する知識や関心を高める。<br>・ 昨年度試行的に開催した「出前講座」について、開催地区やテーマなどの拡充を検討する。<br>・ 病院秋まつりにおいて、無料健康相談を開催する。<br>・ 岐阜県難病団体連絡協議会の主催する難病医療福祉相談会などに、福祉相談員として参加する。 | （1）公開講座、医療相談会等の定期的開催<br>・ 一般市民向けの公開講座を開催した。<br>○市民公開講座<br>９／２３<br>「女性のための健康講座　もっと更年期・乳がんを知ろう～最近の話題から～」<br>参加者数：約１６０名<br>○緩和ケア市民公開講座<br>６／２９<br>「今を大切に生きる～理想の終焉を見つめて～」カール・ベッカー氏（京都大学教授）<br>参加者数：約３００名 | Ⅲ | | |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | ・　医師、看護師が講師となり「健康づくり講座」を多治見市内の公民館で１２回開催した。<br>総参加者数：　424 名<br>・１０月１３日に開催した病院秋まつりにおいて来場者１３９名に無料健康相談と血圧測定診断を行った。<br>・　岐阜県ソーシャルワーカー協会東濃支部ソーシャルワーカー研修会（情報交換会）に参加した。（偶数月に開催）<br>4/20 タジミ第１病院、6/15 多治見ｸﾘﾆｯｸ、<br>8/24 金山病院、10/26　岩村いこい、<br>12/14 東濃厚生病院、2/15 多治見市民病院<br>・　東濃地域緩和ケア研修会を 6/15、11/16 に開催した。<br>・　岐阜県難病団体連絡協議会が６月３日に開催され、社会福祉士１名が出席し意見交換を行った。 | | | |
| 30 | （2）保健医療、健康管理等の情報提供<br>病院のホームページで最新の情報を発信するとともに関係機関や医療情報サイト等に情報を提供する。さらに病院広報誌では、掲載内容を厳選し、幅広い年齢層に対し最新の情報を提供する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （2）保健医療、健康管理等の情報提供<br>・　病院広報誌「けんびょういん」を発行し、最新の医療情報を発信する。<br>・　地域情報誌等への医療情報の提供に積極的に協力する。<br>・　ホームページに公開する情報を常に最新のものに更新する。 | （2）保健医療、健康管理等の情報提供<br>・　病院広報誌「けんびょういん」を７月及び１月に発行し最新の情報を発信した。<br>・　新聞、地域情報誌の医療特集記事に寄稿した。<br>・　ホームページ全体のデザインを一新し、閲覧者の見やすさや利便性が向上した。また、公開内容の更新を迅速化するため、各部門内にスタッフを配置した。<br>・　研修医の活動内容を紹介する動画を作成（１２本／年）し、ホームページ上で公開するなど、常に新鮮な情報を提供した。 | Ⅲ | | |

**１　住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するための取組**
**１－３　教育研修事業**
**１－３－１　医師の卒後臨床研修等の充実**

| 中期目標 | ３－３　教育研修事業<br>３－３－１　医師の卒後臨床研修等の充実<br>研修医等の研修施設として認められた病院（臨床研修病院）として、臨床研修医及びレジデント（専門分野の研修医）の積極的な受入れを行なうこと。<br>名古屋大学医学部附属病院、名古屋市立大学病院や県が設立した他の地方独立行政法人などの臨床研修病院との連携や、法人の有する人的・物的資源を活かした独自の臨床研修プログラムの開発など、質の高い医療従事者の養成に努めること。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | （１）質の高い医療従事者の養成<br>質の高い医療従事者養成のため、独自の臨床プログラムを開発し、その推進体制を強化する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （１）質の高い医療従事者の養成<br>・　最新の医療技術や知識習得のため、学会や講習会への参加に必要な費用を負担するなどの支援を行う。<br>・　外部から講師を招聘して講演会等を開催し、専門領域から一般領域まで幅広く知識を習得し、レベルアップを図る。<br>・　初期臨床研修について、臨床研修センターの機能を充実させるとともに、研修医が求める臨床研修体制に向け改善を図る。<br>・　卒後臨床研修機構による認定の取得に向けた取り組みを行う。<br>・　研修医のニーズを踏まえた「症例検討会」「各診療科部長による講義」や「早朝講義」などを定期的に開催する。 | （１）質の高い医療従事者の養成<br>・　病院が経費を負担する等の支援を行い各種学会、講習会等への参加を奨励した。（１人年２回まで支援）<br>・　院内で外部講師を招へいし、医師等を対象とした講演会を実施した。<br>【講演会等開催実績】<br>開催日 / 講演会等名 / 出席人数<br>H25.5.16 / 緩和ケア講演会 / 81人<br>H25.9.12 / 医療安全講演会 / 482人<br>H25.11.14 / 緩和ケア講演会 / 60人<br>H25.11.19 / 感染対策講演会 / 433人<br>H25.12.5 / 職員研修会 / 95人<br>H26.1.30 / 医療安全講演会 / 429人<br>・　初期臨床研修医の意見や要望を臨床研修センターで集約し、毎月の臨床研修管理委員会にて検討を行った。検討した内容を臨床プログラムに反映させることにより、研修医が求める臨床研修体制の確立に努めた。<br>・　卒後臨床研修評価機構による認定施設の取得に向けた取り組みを行った。<br>・　研修医に対し、各診療科部長による実践的な講義を行った。（毎月２診療科）<br>・　研修医を対象とした内科症例検討会を月１回開催し、研修医自らが症例提示を行った。<br>・　毎月第２金曜日に研修医を対象とした早朝勉強会を実施した。 | Ⅲ | | |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・ 研修体制の充実等により、平成２６年度の医師臨床研修の定数上限である９名の確保をすることができた。<br>【初期臨床研修医数】　（各年度末時点）<table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>医師</td><td>１８人</td><td>１７人</td><td>１７人</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>２人</td><td>２人</td><td>２人</td></tr></table></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>32</td><td>（２）後期研修医（レジデント）に対する研修等<br>後期研修医（レジデント）に対しては、多治見病院独自の研修と大学病院と連携した研修等、魅力あるプログラムを開発し運用推進していく。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（２）後期研修医（レジデント）に対する研修等<br>・ 後期研修１年目の研修医は、研修希望診療科の選択を可能とする。<br>・ 各診療科においては、専門領域の疾患の診断と治療の指導はもとより研究会、学会参加や学会発表の支援を行うなどのサポート体制を強化し、卒後臨床研修の充実を図る。</td><td>（２）後期研修医（レジデント）に対する研修等<br>・ 後期研修１年目の研修医に対し、希望する複数の診療科にて研修を行った。<br>・ 各診療科で専門領域の疾患の診断と治療はもとより、研究会、学会参加や学会発表の支援を行った。<br>【後期研修医（レジデント）数】（各年度末時点）<table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>医師</td><td>１３人</td><td>１２人</td><td>１５人</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>１人</td><td>１人</td><td>１人</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

**１－３－２　看護学生、救急救命士等に対する教育の実施**

| 中期目標 | ３－３－２　看護学生、救急救命士等に対する教育の実施<br>県内に就学している看護学生の実習受入れ、救急救命士の新規養成及び再教育にともなう病院実習など地域医療従事者への研修の実施及び充実を図ること。 |
|---|---|

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td>33</td><td>（１）医学生、看護学生の実習受入れ<br>看護学生に対しては実習の積極的な受け入れ、当院の人員確保に努める。<br>○看護学生に対する教育<br>平成 20 年度実績　大学 77 名、看護学校等 136 名</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（１）医学生、看護学生の実習受け入れ<br>・ 医学生の受け入れについては、引続き関連大学（名古屋大学、名古屋市立大学、岐阜大学）から積極的に受け入れる。また、合同ガイダンスにも引続き参加し、当院のＰＲを行っていく。</td><td>（１）医学生、看護学生の実習受け入れ<br>・ 医学生については、名古屋大学、名古屋市立大学、岐阜大学など関連大学から積極的に受け入れた。</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr>
<td></td>
<td>平成21年度見込　大学73名、看護学校等176名<br>今後も積極的に看護師に対する実習を定期的に実施する。</td>
<td></td><td></td><td></td><td></td>
<td>・　看護学生については、専門学校や大学から積極的に実習を受け入れる。<br><br>
<table>
<tr><td>多治見看護専門学校</td><td>1～3年生　随時　延300名程度</td></tr>
<tr><td>県立看護大学</td><td>1年生　基礎（2名）<br>3年生　母性（30名程度）<br>小児（10名程度）<br>成熟期（10名程度）<br>4年生　卒研（2～3名程度）</td></tr>
<tr><td>中京学院大学</td><td>1年生　20名程度<br>2年生　35名程度</td></tr>
<tr><td>東濃看護専門学校</td><td>3年生　30名程度</td></tr>
</table>
</td>
<td>【医学生の受け入れ状況】<br>
<table>
<tr><th>受け入れ元</th><th>受け入れ状況</th></tr>
<tr><td>名古屋大学<br>名古屋市立大学<br>岐阜大学<br>自治医科大学</td><td>実習：8名　見学：0名<br>実習：0名　見学：12名<br>実習：1名　見学：1名<br>実習：0名　見学：3名</td></tr>
<tr><td colspan="2">※医学生に対するＰＲのためポートメッセ名古屋、じゅうろくプラザで開催された合同ガイダンスに参加</td></tr>
</table>
<br>【看護学生受け入れ実績】<br>
<table>
<tr><th>受け入れ元</th><th>受け入れ状況</th></tr>
<tr><td>多治見看護専門学校</td><td>1年生　117名<br>2年生　114名<br>3年生　114名　　計345名</td></tr>
<tr><td>県立看護大学</td><td>1年生（基礎）　2名<br>3年生（母性）　33名<br>（小児）　9名<br>（成熟期）10名<br>卒業研修　6名<br>精神看護　6名<br>地域看護学　7名<br>成熟期看護（基礎）　2名　計70名</td></tr>
<tr><td>中京学院大学</td><td>1年生（基礎Ⅰ）　19名<br>2年生（基礎Ⅱ）　24名<br>（成人Ⅰ）　20名<br>3年生（成人Ⅱ）　42名<br>看護学総合実習　14名　　計119名</td></tr>
<tr><td>東濃看護専門学校</td><td>3年生　40名</td></tr>
<tr><td>下呂看護専門学校</td><td>3年生　28名</td></tr>
</table>
・　静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程（緩和ケア分野）の学生２名を受け入れた。<br><br>【その他（コメディカル）の受け入れ状況】<br>
<table>
<tr><th>受け入れ部署</th><th>受入れ元・受け入れ状況</th></tr>
<tr><td>薬剤部</td><td>名城大学2名、金城学院大学4名、愛知学院大学3名　計9名</td></tr>
</table>
</td>
<td></td><td></td><td></td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>
<table>
<tr><td>中央放射線部</td><td>岐阜医療科学大学16名、東海医療技術専門学校2名,鈴鹿医療科学大学1名計19名</td></tr>
<tr><td>臨床検査科</td><td>岐阜医療科学大学10名</td></tr>
<tr><td>リハビリテーション科</td><td>日本福祉大学外13施設　計19名</td></tr>
</table>
【学生の実習受入状況】
<table>
<tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr>
<tr><td>医学生</td><td>10人</td><td>10人</td><td>9人</td></tr>
<tr><td>看護学生</td><td>452人</td><td>525人</td><td>602人</td></tr>
<tr><td>コメディカル</td><td>57人</td><td>48人</td><td>57人</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>519人</td><td>583人</td><td>668人</td></tr>
</table>
</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>34</td><td>（2）救急救命士の病院実習など地域医療従事者への研修の実施及び充実<br>救急救命士に対しては、定期的な講習及び病院実習を実施し医療技術の向上を図る。<br>○救急救命士に対する教育<br>平成２０年度実績　生涯教育実習７４名、<br>気管挿管実習５名、薬剤投与実習１名<br>平成２１年度見込　生涯教育実習７０名、<br>気管挿管実習５名、薬剤投与実習２名<br>今後も積極的に救急救命士に対する実習を定期的に実施する。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（2）救急救命士の病院実習など地域医療従事者への研修の実施及び充実<br>・　生涯教育実習、就業前実習、気管挿管実習、薬剤投与実習を定期的に実施し、医療技術の向上を図る。</td><td>（2）救急救命士の病院実習など地域医療従事者への研修の実施及び充実
<br>【研修実績の年度比較】
<table>
<tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr>
<tr><td>生涯教育実習</td><td>66名</td><td>51名</td><td>75名</td></tr>
<tr><td>就業前実習</td><td>3名</td><td>4名</td><td>4名</td></tr>
<tr><td>気管挿管実習</td><td>5名</td><td>8名</td><td>3名</td></tr>
<tr><td>薬剤投与実習</td><td>5名</td><td>1名</td><td>1名</td></tr>
</table>
【救急救命士の実習受入状況】
<table>
<tr><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr>
<tr><td>79人</td><td>64人</td><td>64人</td></tr>
</table>
</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

**1　住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するための取組**
**1－4　地域支援事業**
**1－4－1　地域医療への支援**

| 中期目標 | |
|---|---|
| | ３－４　地域支援事業<br>３－４－１　地域医療への支援<br>地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、高度先進医療機器の共同利用の促進、開放病床の利用促進など、地域基幹病院として地域医療の確保に努めること。<br>医師不足の地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援など人的支援を行うこと。 |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | （1）地域医療水準の向上<br>平成２０年９月より開放型病床の登録医を募り、５床の開放型病床を稼働。医科歯科合わせて２０７名の登録医により、１年間に２１名の共同診療を実施した。二次医療圏における連携強化を図り登録医師促進、開放型病床・高度医療機器の共同利用を推進する。<br>東濃地域周産期母子医療センターとして、東濃地域の産科開業医との「お産ネットワーク」を結び、密接な連携のもと、小児科医と共にハイリスクの周産期医療を担っている。地域医療機関と共に安心して出産ができる体制づくりを推進する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （1）地域医療水準の向上<br>・　地域医療連携推進協議会の開催や、医療連携登録医等への継続的な訪問活動を通じて、医療連携の強化、各医療機関の役割分担の明確化を図り、紹介率６０%、逆紹介率７０%以上の恒常的な達成を目指す。<br>・　高度医療機器や開放型病床の共同利用について継続的にＰＲし、利用を促進する。<br>・　病院主催の講演会、勉強会（医療連携、医療安全、感染対策、緩和ケアなど）を通じて、地域の医療水準の向上と医療機関相互の連携強化に努める。<br>・　東濃地域周産期母子医療センターとして、東濃地域の産科医との「お産ネットワーク」を結び、密接な連携のもと、小児科医と共にハイリスクの周産期医療を引き続き推進する。<br>・　在宅緩和ケアについて、地域のｹｱﾏﾈｰｼﾞｬｰや診療所等と連携し、事例検討会の開催や入退院の調整を行う。<br>・　精神科を設置している地域医療機関と東濃精神科医療連絡協議会を定期的に開催し、精神医療に関する情報交換を積極的に行う。 | （1）地域医療水準の向上<br>・　四半期に１度のペースで開催した地域医療連携推進協議会を通じ、医師会長をはじめとする関係者に医療連携の推進、高度医療機器、開放型病床の利用を呼びかけた。<br>【紹介率・逆紹介率】<br>区分＼年度 / H23 / H24 / H25<br>紹介率 / 62.7% / 62.6% / 65.3%<br>紹介実件数 / 17,215件 / 18,053件 / 19,233件<br>逆紹介率 / 83.8% / 82.8% / 80.8%<br>逆紹介実件数 / 20,842件 / 21,023件 / 20,698件<br>【高度医療機器の共同利用実績】<br>機器名＼年度 / H23 / H24 / H25<br>CT / 610件 / 534件 / 582件<br>MRI / 548件 / 478件 / 537件<br>RI / 169件 / 110件 / 124件<br>PET / 92件 / 91件 / 78件<br>【開放型病床利用実績】<br>区分＼年度 / H23 / H24 / H25<br>医科 / 4件 / 0件 / 14件<br>歯科 / 10件 / 9件 / 20件<br>・　医療連携講演会、症例検討会等を開催し、地域医療の質の向上に努めた。<br>【医療連携講演会】<br>2/27「誰でもどこでもできるがん治療の地域医療連携」<br>【緩和ケア研修会】　9/7、8<br>【緩和ケア講演会】　5/16、11/14<br>【緩和ケア勉強会】　4/11、7/11、8/8、10/10、12/12、1/9、2/6、3/13 | Ⅲ | | |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>【地域連携パス合同委員会】6/13、10/24、2/28<br><br>・　東濃地域周産期母子医療センターとして、東濃地域の産科医との「お産ネットワーク」を結び、ハイリスクの周産期医療に対し、24 時間 365 日体制で安心して出産ができる環境の維持に努めた。<br><br>・　在宅療養相談調整をするため、地域の在宅支援機関と連携し、退院前に支援機関を交えた合同カンファレンスを実施した。<br>【合同カンファレンス開催件数】<br><table><tr><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>２３１件</td><td>３５１件</td><td>４３１件</td></tr></table><br>・　精神科を設置している地域医療機関と東濃精神科医療連絡協議会を定期的に開催し、精神医療に関する情報交換を積極的に行った。（内容：事例検討、講演会、情報交換会・在宅への退院支援）<br>開催日 5/11, 10/5, 10/6, 2/8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>36</td><td>（2）医師不足の地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援など人的支援<br>へき地医療は、国民健康保険上矢作病院へ、医師を一人派遣しており、研修医も、月単位に一人ずつ、派遣している。今後も継続し、支援を推進する。</td><td>Ⅳ</td><td>Ⅱ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（2）医師不足の地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援など人的支援<br>・　国民健康保険上矢作病院に対し、定期的な医師の派遣支援を継続する。<br>・　へき地医療に関しては、岐阜県へき地医療支援機構の求めに応じ、随時医師の派遣を行う。</td><td>（2）　医師不足の地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援など人的支援<br>・　国民健康保険上矢作病院へ医師を週１日（当直業務を含む）延べ５３人、研修医を１ヶ月に１名ずつ４ヶ月間派遣をした。<br>・　岐阜県へき地医療支援機構の求めに応じ、国民健康保険蛭川診療所へ、５日間、各１名の医師を派遣した。<br>・　中津川市民病院からの依頼に応じ、10／1 から毎週木曜日に、医師（脳神経外科）１名（２名で隔週交代）を派遣した。<br><br>【他の医療機関への人的支援の状況】（延べ日数）<br><table><tr><th>派遣先<br>医療機関名</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>国保上矢作病院</td><td>１００日</td><td>１１４日</td><td>１０６日</td></tr></table></td><td>Ⅳ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 国保蛭川診療所 －日 4日 5日<br>中津川市民病院 －日 －日 24日 | | | |

**１－４－２　社会的な要請への協力**

| 中期目標 | |
|---|---|
| | ３－４－２　社会的な要請への協力<br>岐阜県立多治見病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的な協力を行うこと。 |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 医療に関する鑑定や調査、講師派遣などの社会的な要請に対する協力を行う。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | ・ 医療に関する鑑定や調査、講師派遣などの社会的な要請に対する協力を行う。<br>・ 医療系専門学校・大学等の要請に応じて講師等の派遣や学生の実習受け入れを行う。 | ・ 専門分野への講演・技術指導の要請に応じ近隣の病院・施設へ医師や認定看護師等を講師として派遣した。<br>・ 多治見看護専門学校に医師、看護師、コメディカルを非常勤講師として派遣した。<br>・ 県内外の大学や教育機関等へ、認定看護師、コメディカルを講師として派遣した。<br><br>【講師等派遣の状況】<br>区分＼年度 H23 H24 H25<br>医師 125人 124人 129人<br>看護師 47人 64人 35人<br>コメディカル 49人 17人 16人<br>合計 221人 205人 180人 | Ⅲ | | |

**１　住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するための取組**
**１－５　災害等発生時における医療救護**
**１－５－１　医療救護活動の拠点機能**

| 中期目標 | ３－５　災害等発生時における医療救護<br>３－５－１　医療救護活動の拠点機能<br>災害等発生時には、岐阜県地域防災計画に基づき、患者の受入れや医療スタッフの現地派遣など本県或いは東濃地域の医療救護活動の拠点機能を担うこと。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 | | | | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 | | 評価委員会の検証 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | H22 | H23 | H24 | H25 | | 業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
| 38 | （1）（医療救護活動拠点機能確保、訓練実施）<br>岐阜県地域防災計画に基づき、又は自らの判断で、岐阜県或いは東濃地域の医療救護活動拠点機能を担う。<br>そのため、日頃から実践的な災害医療訓練を定期的に行い医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持し災害発生時には患者の受け入れなど求められる機能を発揮する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （1）岐阜県地域防災計画に基づき、又は自らの判断で、本県或いは東濃地域の医療救護活動拠点機能を担う。<br>・　岐阜県災害拠点病院として大規模災害時にも迅速に対応できるよう救命救急センターを中心に受け入れ態勢をとる。また、必要な設備、備品等を整備する。<br>・　火災等の院内災害を想定した防災訓練を実施する。<br>・　大規模災害を想定した訓練を実施し、医療救護活動拠点としての機能を検証する。<br>・　被災時においても診療録データが失われないよう、院外でバックアップするシステムの構築に取り組む。 | （1）岐阜県地域防災計画に基づき、又は自らの判断で、本県或いは東濃地域の医療救護活動拠点機能を担う。<br>・　岐阜県災害拠点病院として大規模災害時にも迅速に対応できるよう救命救急センターを中心に受け入れできるよう必要な設備、備品等を整備した。<br>【主な整備品】<br>品　目 / 数量<br>防災倉庫 / 1<br>被ばく線量計 / 12<br>防護服 / 110<br>化学防護服 / 20<br>除染エアーテント / 1<br>・火災を想定した避難訓練を実施した。（１１／２７、２／２８の２回）<br>・大規模災害を想定した災害実働訓練を実施した。（9/２６）<br>・　大規模災害時等におけるトリアージの患者数などの状況が把握できるように、システムの構築をした。<br>・　大規模災害時等においても診療録データが失われないよう、多治見市以外の場所にリアルタイムにバックアップするシステムが構築した。 | Ⅲ | | |

## １－５－２　他県等の医療救護への協力

| 中期目標 | ３－５－２　他県等の医療救護への協力<br>県内のみならず他県等の大規模災害等においても、災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣するなど、積極的に医療救護の協力を行うこと。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 39 | （1）大規模災害発生時のDMATの派遣<br>大規模災害時に厚生労働省医政局からの要請に常時対処出来る体制をとり、災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣する。 | Ⅳ | Ⅳ | Ⅲ | | （1）大規模災害発生時の災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣<br>・　厚生労働省医政局の要請により災害派遣医療チーム（DMAT）を常時派遣できる体制をとる。 | （1）大規模災害発生時の災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣<br>・　災害派遣医療チーム（DMAT）に必要な設備、備品を整備し、大規模災害時にも迅速に対応できるよう２チーム体制を維持した。 | Ⅲ | | |
| 40 | （2）DMATの質と向上<br>大規模災害に対応できるよう災害派遣医療チーム（DMAT）は、国及び中部地区で定期的に開催される講習会に参加し、質の向上と維持を図る。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （2）DMATの質と向上<br>・　厚生労働省、中部地区、岐阜県などで開催する訓練に参加し、質の向上と維持を図る。 | （2）災害派遣医療チーム（DMAT）の質の向上と維持<br>・　厚生労働省、中部地区、岐阜県などで開催する訓練に参加し、質の向上と維持を図った。<br><br>【主なDMAT活動訓練実績】 | Ⅲ | | |

| 実施期間 | 訓練内容 | 参加人数 |
|---|---|---|
| H25.6.22、23 | 技能維持研修 | ５名 |
| H25.8.31 | 広域医療搬送訓練 | ５名 |
| H25.10.8、9 | 中部ブロックロジスティクス研修 | ２名 |
| H25.12.21 | 原子力災害医療対応総合研修 | １名 |
| H26.2.10 | 美濃地域ＳＣＵ資機材公開会 | ３名 |

## ２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組
### ２－１　効率的な業務運営体制の確立
#### ２－１－１　簡素で効果的な組織体制の確立

| 中期目標 | |
|---|---|
| | 4　業務運営の改善及び効率化に関する事項<br>4－1　効率的な業務運営体制の確立<br>4－1－1　簡素で効果的な組織体制の確立<br>医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ的確に対応するため、法人の理事長のリーダーシップが発揮できる簡素で効果的な組織体制を確立すること。<br>ＩＴの活用とアウトソーシングを進めるとともに、経営企画機能を強化し、経営効率の高い業務執行体制を確立すること。 |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 | | | | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 | | 評価委員会の検証 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | H22 | H23 | H24 | H25 | | 業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
| 41 | （1）効率的かつ効果的な組織体制の構築<br>理事長のリーダーシップが発揮できる効率的・効果的な組織体制を構築する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （1）効率的かつ効果的な組織体制の構築<br>・　法人化後に経営基盤の強化のため、経営分析、医療連携、診療報酬を担当する部門を中心に整備した組織体制について、より効率的に機能するよう充実を図る。 | （1）効率的かつ効果的な組織体制の構築<br>・　医療環境の変化や住民の医療需要に的確に対応するため、経営分析や予測、各種広報の展開など、経営基盤の強化を図った。 | Ⅲ | | |
| 42 | （2）各種業務のＩＴ化の推進<br>病院独自のＩＴインフラを再整備することで、情報到達に確実性を持たせ、ペーパーレス化、迅速化を図る。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （2）各種業務のＩＴ化の推進<br>・　職員向けのＩＴ研修を実施し、各種業務のＩＴ化に順応できるよう個々の職員のスキルアップを図る。<br>・　電子カルテを中心とする医療総合情報システムのプログラム改修を行い、ユーザーの操作性を向上させる。 | （2）各種業務のＩＴ化の推進<br>・　Excel、Word、Powerpoint の他、職員のスキルアップを図る研修会を実施した。<br>研修会　　１１回実施<br>・　医療用文書作成支援システムを構築し、各種文書作成にかかる医師の負担軽減を図った。<br>・　現場の要望を汲み、医療総合情報システムのプログラム改修を行い、ユーザーの操作性を向上させた。<br>・　大規模災害時等におけるトリアージの患者数などの状況が把握できるように、システムを構築した。<br>・　大規模災害時等においても診療録データが失われないよう、多治見市以外の場所にリアルタイムにバックアップするシステムを構築した。<br>・　ME機器の定期点検状況が容易に把握できるよう、ME機器の管理するシステムを構築した。 | Ⅲ | | |
| 43 | （3）アウトソーシング導入による合理化<br>定期的な業務についてはアウトソーシングを導入することにより各種事務合理化を進める。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （3）アウトソーシング導入による合理化<br>・　昨年度に引き続き物流管理システム（ＳＰＤ）について業務内容の分析を進め、システム更新も含めた業務の効率化、軽減化を検討する。<br>・　業務の性質や費用対効果等を勘案のうえ、アウトソーシングの導入を検討し、業務のスリム化を | （3）アウトソーシング導入による合理化<br>・　日常業務の改善、在庫管理体制の確立のため、新たなＳＰＤ運用管理の委託業者をプロポーザルにより選定をし、運用の準備をした。<br>・　外来駐車場の有料化に伴い発生する駐車場の料金収入の範囲内で、駐車場の管理運営業務全般を | Ⅲ | | |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 | | | | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 | | 評価委員会の検証 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | H22 | H23 | H24 | H25 | | 業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
| | | | | | | 図る。 | 外部委託し、運営経費を削減した。<br>・　日々の入院患者に関するＤＰＣコーディングの確認、検証業務については委託業者へ全面的に委託することとし、職員負担の軽減を図った。 | | | |
| 44 | （4）経営効率の高い業務執行体制の確立<br>　事務局職員の病院運営企画にかかわる能力向上の支援を行ったり、病院経営に寄与すると認められる職員が定年を迎えた場合の再雇用制度の積極的な活用を図り、経営企画機能を強化することで、経営効率の高い業務執行体制を確立する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （4）経営効率の高い業務執行体制の確立<br>・　経営分析、医療連携、診療報酬を担当する各部門へ診療情報管理士を配置し、診療情報を活かした業務執行体制の充実を図る。<br>・　再雇用制度等を推進し、有能な人材の確保に努める。<br>・　診療情報の分析、活用による経営企画能力の向上のため、職員の診療情報管理士資格の取得を促進、支援する。<br>・　病院運営にかかる各種研修会等へ幹部職員を始めとして積極的に参加する。 | （4）経営効率の高い業務執行体制の確立<br>・　経営分析、医療連携、診療報酬を担当する各部門へ診療情報管理士を配置し、診療報酬内容を検証するなど診療情報を活かした業務執行体制の充実を図った。<br>・　定年を迎えた職員については、希望者全員を再雇用することとしているが、退職する職員が管理職で、組織にとって極めて有為な人材の場合には、非常勤の管理職員として再雇用できるよう規程を整備した。<br>・　診療報酬請求事務に関する専門性向上のため、職員の診療情報管理士資格取得を支援し、平成２５年度末に職員２名が認定試験に合格し、同資格の取得をした。また、平成２５年度末までに５名が受講を開始しており、今後順次増員予定となっている。<br>・　病院運営にかかる病院長・幹部職員セミナー等へ幹部職員を始めとして積極的に参加した。 | Ⅲ | | |
| 45 | （5）時差出勤制度の導入<br>　女性医師を対象に時差出勤制度を導入することで、女性医師のより積極的な病院運営参画を促す。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （5）時差出勤制度の導入<br>・　女性医師を中心とした希望者に対し、時差出勤や短時間勤務などの利用を進め、勤務の負担軽減を図ることで、ワークライフバランスの推進を図る。 | （5）時差出勤制度の導入<br>・　女性医師３名に短時間勤務制度（週２０時間、３０時間）を適用し、ワークライフバランスを支援し、女性医師の離職防止を図った。 | Ⅲ | | |

## ２－１－２　診療体制、人員配置の弾力的運用

| 中期目標 | ４－１－２　診療体制、人員配置の弾力的運用<br>医療需要の変化に迅速に対応し、診療科の変更や医師・看護師等の配置の弾力的運用を行うこと。<br>常勤以外の雇用形態も含めた多様な専門職の活用による、効果的な医療の提供に努めること。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 | | | | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 | | 評価委員会の検証 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | H22 | H23 | H24 | H25 | | 業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
| 46 | （1）弾力的運用の実施<br>医療需要の変化や患者動向に迅速に対応した、診療科の変更、医師・看護師等の配置の弾力的運用を行う。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （1）弾力的運用の実施<br>・ 昨年度から開始したリハビリテーション科の土曜診療を継続し、治療効果が期待できるリハビリテーションを行う。<br>・ 夜間専従看護師の配置、短時間労働制の実施職場復帰支援プログラムの実施などにより、職員の負担軽減や柔軟な職員配置を行う。 | （1）弾力的運用の実施<br>・ リハビリテーションの土曜日診療により、急性期・週末入院患者のリハビリが充実し、平均在院日数の短縮などにつながった。<br>・ 看護体制の強化のため以下の取り組みを行った。<br>①夜勤専従看護師の配置<br>救命救急センター及び救急外来にかかる夜勤専従看護師（非常勤職員）の制度化を行い、救命救急センターに１名を採用した。<br>また、正規職員においても、職員の意見を十分に汲み取りながら勤務表の作成を行った。<br>②短時間就労制の実施<br>働き手のニーズに合わせ週１回、１日１時間以上の勤務を提案し、週２０時間未満の勤務をしているパート職員が１０名在職している。<br>③職場復帰支援プログラムの実施<br>復帰に不安を抱えている離職者のための託児付き復帰支援制度をにより、新たに１４名の非常勤看護師を採用した。（平成２５年度末時点　９１名）<br>・ 地域医療連携推進協議会を年４回開催し、地域内の医療関係者等から意見聴取を行った。また、登録医を中心に訪問活動を実施し、医療ニーズの把握に努めた。<br>【地域医療連携推進協議会開催実績】<br>第１回 (5/24)、第２回 (8/29)、第３回 (12/10)、第４回 (3/11) | Ⅲ | | |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>【登録医等への訪問実績】　８８施設</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>47</td><td>（2）効果的な体制による医療の提供<br>常勤以外の雇用形態を含む多様な専門職の活用など、効果的な体制による医療の提供に努める。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅳ</td><td>Ⅳ</td><td></td><td>（2）効果的な体制による医療の提供<br>・　医師事務作業補助者の業務の質の向上を図るとともに、「２５：１」補助体制加算の早期導入を進める。<br>・　連携パスコーディネーターによる地域連携クリニカルパスの普及や運用の推進を継続する。</td><td>（2）効果的な体制による医療の提供<br>・　医師の負担軽減を図るため、医師事務作業補助者を3名増員し、１５診療科の運用から２０診療科に拡大するとともに、医師から要望の強かった病棟にも１名を配置した。補助体制加算は昨年度の３０：１から２５：１となった。<br>　また、病棟事務補助者を１１名配置し、看護師の業務負担軽減を図った。<br><br>【医師事務作業補助者配置部署】<br><table><tr><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>・内科<br>・整形外科<br>・中央手術室<br>・外科<br>・脳神経外科<br>・泌尿器科<br>・産婦人科<br>・歯科口腔外科</td><td>・内科<br>・整形外科<br>・中央手術室<br>・外科<br>・脳神経外科<br>・泌尿器科<br>・産婦人科<br>・歯科口腔外科<br>・耳鼻いんこう科<br>・小児科<br>・皮膚科<br>・中央放射線科<br>・精神科<br>・神経内科<br>・眼科</td><td>・内科<br>・神経内科<br>・整形外科<br>・形成外科<br>・中央手術室<br>・外科<br>・皮膚科<br>・脳神経外科<br>・泌尿器科<br>・産婦人科<br>・耳鼻いんこう科<br>・歯科口腔外科<br>・小児科<br>・新生児内科<br>・中央放射線科<br>・精神科<br>・眼科<br>・緩和ケア内科<br>・麻酔科<br>・救急科</td></tr></table></td><td>Ⅳ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th rowspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価<br>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th rowspan="2">自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>【医師・看護師事務作業補助者数】（各年度末時点）<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>医師事務作業補助者<br>（医療クラーク）</td><td>16人</td><td>24人</td><td>28人</td></tr><tr><td>病棟事務補助者<br>（看護クラーク）</td><td>9人</td><td>11人</td><td>11人</td></tr><tr><td>合計</td><td>25人</td><td>35人</td><td>39人</td></tr></table><br>・　連携パスコーディネーターによる地域連携クリニカルパスの普及や運用の推進を継続した。パス運用件数が全体的に増えた。</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>48</td><td>（3）３法人間の人事交流による適正な職員配置<br>３法人間の人事交流により（人材活用のネットワーク化）適正な職員配置を確保する。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（3）３法人間の人事交流による適正な職員配置<br>（人材活用のネットワーク化）<br>・　適正な職員確保及び配置を図るため、地方独立行政法人岐阜県総合医療センター及び地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院との間で、人事交流調整を引き続き進める。特に看護師、薬剤師、といった医療技術職員を相互に派遣し、各地域における医療サービスの水準を維持する。</td><td>（3）３法人間の人事交流による適正な職員配置<br>（人材活用のネットワーク化）<br><br>【職員の他法人への出向状況】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>医師</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>3人</td><td>1人</td><td>0人</td></tr><tr><td>合計</td><td>3人</td><td>1人</td><td>0人</td></tr></table>【他法人職員の受入状況】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>医師</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td></tr><tr><td>看護師</td><td>2人</td><td>1人</td><td>0人</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>3人</td><td>1人</td><td>1人</td></tr><tr><td>合計</td><td>5人</td><td>2人</td><td>1人</td></tr></table>（派遣元、職種別内訳）<br><table><tr><th>派遣元</th><th>人数及び職員の内訳</th></tr><tr><td>岐阜県総合医療センター</td><td>薬剤師　1名</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

## ２－１－３　人事評価システムの構築

| 中期目標 | ４－１－３　人事評価システムの構築<br>職員のモチベーション向上のため、知識、能力、経験や勤務実績等を反映させた公平で客観的な人事評価制度の構築を図り、中期目標の期間の最終年度までに試行運用を行うこと。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 49 | 職員の業績や能力を職員の給与に反映し、職員の人材育成、人事管理に活用するための公正で客観的な人事評価制度を構築する。また、中期目標の期間内に当該制度の試行を実施する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | 職員の勤務意欲を高めるため、職員の実績や能力を職員の給与に反映する公正で客観的な人事評価制度の構築に向けて、コンサルタントの活用も含め、具体的な検討に着手する。 | 職員の業績や能力を職員の給与に反映し、職員の人材育成、人事管理に活用するため、コンサルタントへ業務委託し、当院独自の制度の構築・試行準備を行った。 | Ⅲ | | |

## ２－１－４　事務部門の専門性の向上

| 中期目標 | ４－１－４　事務部門の専門性の向上<br>事務部門において、病院特有の事務に精通した法人の職員を計画的に確保及び育成することにより、事務部門の専門性を向上すること。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 50 | 病院特有の事務に精通し、法人の事務及び経営の中心となるプロパー職員を計画的に確保するため、企業会計、庁舎管理、医事会計、電子カルテシステム等病院内各分野に精通した事務局職員を計画的に採用し育成する。<br>また、診療報酬事務、病院経営等の専門研修を実施し事務部門の総合的な専門性の向上を図る。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | ・ 新規採用職員研修を始めとし、事務職員としての総合的な資質を高めつつ、専門性の向上を図る。<br>・ 診療情報の分析、活用による経営企画能力の向上のため、職員の診療情報管理士資格の取得を促進、支援する。<br>・ 経営管理や人事・労務管理等に関する研修会への参加を積極的に進める。<br>・ プロパー職員の採用を計画的に進めるとともに、企業会計等に精通した外部人材の確保に引き続き取り組む。 | ・ 毎月１回は新規採用職員に対し、研修を実施した。<br>（主な内容）・医療関連法規　・病院の経営状況<br>・文書作成、管理の基礎　・危機管理<br>・ 診療情報管理士は、平成２５年度末に新たに職員２名が資格取得した。平成２５年度末までに新たに５名が受講を開始しており、今後順次増員予定となっている。<br>・ 講習会などにより、査定、保険請求等の知識向上に努めた。<br>・ 経営管理や人事・労務管理等に関する研修会への参加を積極的に進めた。<br>【研修参加実績】 | Ⅲ | | |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | |

| 開催日 | 研 修 会 名 | 参加者数 |
|---|---|---|
| H25.8.1,2 | 病院長・幹部職員セミナー | 2名 |
| H25.9.20 | 病院経営管理研修会 | 1名 |
| H25.10.25 | 若手医療スタッフの働き方・休み方セミナー | 2名 |
| H25.12.20 | 病院経営戦略セミナー | 2名 |
| H25.7.19他 | DPC勉強会 | 9名 |

・ 民間企業等での実務経験を持つ者も対象に採用試験を実施した。

【事務職員の状況】 (各年度末時点)

| 区分＼年度 | H23 | H24 | H25 |
|---|---|---|---|
| プロパー職員 | 20人 | 26人 | 28人 |
| 県派遣職員 | 15人 | 11人 | 8人 |
| 合計 | 35人 | 37人 | 36人 |

**2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組**
**2－2 業務運営の見直しや効率化による収支改善**
**2－2－1 多様な契約手法の導入**

| 中期目標 | |
|---|---|
| | 4－2 業務運営の見直しや効率化による収支改善<br>4－2－1 多様な契約手法の導入<br>透明性・公平性の確保に十分留意しつつ、複数年契約や複合契約など多様な契約手法を導入し、契約事務の集約化・簡素化・迅速化を図るとともに、費用の節減に努めること。 |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 51 | 民間病院の取り組みを参考に、複数年契約や複合契約などの多様な契約手法導入により、契約事務の集約化・簡素化・迅速化を図る。具体的には、病院関連委託業務（医療事務、給食、警備、清掃、薬剤、診療材料、寝具、洗濯等）について、「複数年契約」、「包括的業務委託」、「委託業務の集約化」などにより事務合理化及び費用の節減を図る。 | Ⅳ | Ⅲ | Ⅲ | | ・ 引き続き「病院経営に関するコンサルタント業務」を活用し、効率的な契約手法や費用について検討を行う。 | ・ 「病院経営に関するコンサルタント業務」を活用し、医療機器購入価格や医薬品、診療材料契約単価について精査し価格交渉を実施した。<br>・ 委託業務について、仕様書内容の見直しや複数年契約検討するなど、契約金額を業者との交渉により抑えることを図った。 | Ⅲ | | |

## ２－２－２　収入の確保

| 中期目標 | ４－２－２　収入の確保<br>地域社会のニーズに即した病院経営を行うことにより、病床利用率や医療機器の稼働率を高め、収入の確保に努めること。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52 | （１）効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用<br>平成２１年４月１日から本格的に運用の始まったＤＰＣ（Diagnosis Procedure Combination の略、診断群分類）は、①医療の質の向上と情報開示、②医療の標準化と透明化、③標準的な治療と価格を患者に明らかにする等を目的に、「１入院あたり人的・物的に医療資源を最も投入した傷病名を」を一つだけ選択し、その傷病名に最も適切な診断群分類のコーディングにより、入院の１日当たりの包括点数が決定され、この包括点数には、主な検査や投薬、処置料が包括されている。<br>よって、医療資源を最も投入した傷病名の選択、診断群分類のコーディング等、効果的な運用及び推進を図るとともに、効率的な検査、投薬等の推進を図り、出来高の活用も図っていく。また、診療科に制限されない効率的な病床管理、医療機器の効率的な活用を図る。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （１）効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用、ＤＰＣの推進<br>・　在院日数の短縮、手術件数の確保など、収入確保に向けた方策について分析を進めるとともに、地域の病床状況などについても検証する。<br>・　診療報酬内容の検証を継続して実施するとともに、職員によるコーディングチェックを進める。<br>・　係数分析とあわせ、新規評価項目等について早期に情報を把握し、係数確保、向上に努める。 | （１）効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用、ＤＰＣの推進<br>・　平均在院日数、入院収益、診療単価、手術件数などの関連について分析を行い、毎月実績を委員会へ報告をした。<br>・　診療報酬担当副院長、職員による診療報酬内容の検証を月２回開催した。診療情報管理士による再検証結果を含めて、DPC コーディングの検証を実施している。<br>検証結果　H25　221 件<br>・　平成２６年度報酬改定に向けて、中医協総会などから逐次情報を入手し、DPC 係数の方向性、制度改定の要点について、毎月の診療報酬委員会において報告・検討を行った。また、新規項目などに対し、４月から算定できるように取り組んだ。<br><br>【病床管理状況の年度比較】 | Ⅲ | | |

| 項目＼年度 | | H23 | H24 | H25 |
|---|---|---|---|---|
| 病床稼働率（%） | | 77.2 | 79.7 | 79.8 |
| 平均在院日数（全体） | | 13.2 | 12.9 | 12.6 |
| 平均在院日数（一般） | | 12.9 | 12.4 | 11.9 |
| 一日当たり外来患者数 | | 1,158 | 1,184 | 1,220 |
| 患者一人当たり診療単価（円） | 入院（全体） | 55,134 | 56,928 | 58,710 |
| | 入院（一般） | 55,469 | 58,331 | 60,926 |
| | 外来 | 12,689 | 13,412 | 14,250 |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td>53</td><td>（2）未収金の発生防止対策等<br>診療報酬の請求漏れ防止を徹底するために内査の強化を図るとともに、未収金発生時での防止を徹底するために相談窓口の拡充を図る。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（2）未収金の発生防止対策等<br>・　入院時説明などを徹底して発生防止に努めるとともに、未収患者の来院時における督促を継続的に行う。<br>・　生活困窮患者については、入院中からの早期の対応を進める。<br>・　弁護士事務所への回収委託を継続し、未収金の効率的な回収に努める。</td><td>（2）未収金の発生防止対策等<br>・　未収金担当者として、社会福祉士の資格を持つ職員を配置し、公費負担制度などの説明による支援を行いながら、未集金の未然防止に努めた。<br>・　入院案内センターにおいて、未収金発生防止のために次の取り組みを実施した。<br>○個室利用にかかる患者の意思を確認する書類の作成<br>○入院案内時の患者からの聞き取りにより、生活困窮者や未集金のある患者について、医療相談室や未収金担当者と連携し、入院初期の段階から公費負担制度の活用や支払計画の作成を行い、未収金の発生防止に努めた。<br>・　弁護士事務所への回収委託を活用し効果的な回収業務を行った。<br>平成２５年度実績：１，５５３千円<br>・　夏期と冬期に計画的に滞納者の自宅を訪問し、未集金の回収を図った。<br>平成２５年度実績：２，３６２千円<br><br>【未収金の発生状況】　（各年度末時点）<br><table><tr><th></th><th colspan="2">H23</th><th colspan="2">H24</th><th colspan="2">H25</th></tr><tr><th></th><th>件数</th><th>金額(千円)</th><th>件数</th><th>金額(千円)</th><th>件数</th><th>金額(千円)</th></tr><tr><td>過年分</td><td>682</td><td>39,909</td><td>650</td><td>34,988</td><td>721</td><td>39,898</td></tr><tr><td>現年分</td><td>1,888</td><td>75,823</td><td>2,051</td><td>93,821</td><td>2,109</td><td>69,312</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,570</td><td>115,732</td><td>2,701</td><td>128,809</td><td>2,830</td><td>109,210</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

**２－２－３　費用の削減**

| 中期目標 | ４－２－３　費用の削減<br>薬剤・診療材料の購入方法の見直しや在庫管理の徹底や後発医薬品（ジェネリック医薬品）の採用などにより費用の節減に努めること。 |
|---|---|

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td>54</td><td>（1）薬品・診療材料の在庫管理を適正に行い院内在庫を必要最小限に抑える。また、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の積極的採用・他病院の契約単価の調査などにより薬品費・診療材料費の節減を図る。</td><td>Ⅱ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>「病院経営に関するコンサルタント業務」の活用により材料費の節減を図るとともに、効率的な在庫管理体制の確立を検討する。<br>後発医薬品（ジェネリック医薬品）の積極的採用などにより、薬品及び診療材料にかかる費用の節減を図る。</td><td>・　日常業務の改善、在庫管理体制の確立のため、新たなＳＰＤ運用管理の委託業者をプロポーザルにより選定をし、運用の準備をした。<br>・　各種委員会をとおして、薬品や診療材料の節減を図った。<br>・　薬品について、医療コンサルタントのアドバイスを受けて業者交渉を行い、業者間の競争促進及び費用の節減を図ることができた。<br><br>【ジェネリック医薬品の使用比率】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>品目ベース</td><td>13.01%</td><td>29.21%</td><td>23.98%</td></tr><tr><td>金額ベース</td><td>9.71%</td><td>10.14%</td><td>8.58%</td></tr></table><br>【医業収益に対する材料費比率】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>薬品費</td><td>14.20%</td><td>14.08%</td><td>15.41%</td></tr><tr><td>診療材料費</td><td>9.40%</td><td>9.00%</td><td>9.76%</td></tr></table><br>【薬品費及び診療材料費】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>薬品費</td><td>1,958,884千円</td><td>2,071,624千円</td><td>2,372,117千円</td></tr><tr><td>診療材料費</td><td>1,293,587千円</td><td>1,316,480千円</td><td>1,501,479千円</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

**３　予算（人件費の見積含む。）、収支計画及び資金計画**

| | |
|---|---|
| 中期目標 | ５　財務内容の改善に関する事項<br>５－１　経常収支比率<br>業務運営の改善及び効率化を効果的に進めることで、中期目標の期間の最終年度までに経常収支比率１００％以上を達成すること。<br>５－２　職員給与費対医業収益比率<br>職員給与費対医業収益比率については、同規模の全国自治体病院の黒字病院の当該比率の平均値を参考に、中期計画にその目標を定め、中期目標の期間の最終年度までに達成すること。 |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td>55</td><td>「２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標の期間の最終年度までに、経常収支比率１００%以上及び職員給与費対医業収益比率を５０%以下とすることを目指す。</td><td>Ⅳ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅳ</td><td></td><td>「２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標の期間の最終年度までに、経常収支比率１００%以上及び職員給与費対医業収益比率を５０%以下とすることを目指す。</td><td>医療連携の強化による患者数の増加や診療単価の増、平均在院日数の短縮などによる医業収益の増とともに価格交渉や契約方法の見直しなどの経費節減の努力によって、経常収支比率は１０４．０%、職員給与費対医業収益比率は４９．６%と計画を達成した。<br>【経常収支比率・職員給与費対医業収益比率】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>経常収支</td><td>102.0%</td><td>105.8%</td><td>104.0%</td></tr><tr><td>職員給与費</td><td>51.5%</td><td>49.7%</td><td>49.6%</td></tr></table></td><td>Ⅳ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">３－１　予算（平成２２年度～平成２６年度）<br>（単位：百万円）<br><table><tr><th>区　分</th><th>金　額</th></tr><tr><td>収入</td><td></td></tr><tr><td>営業収益</td><td>７０，０６４</td></tr><tr><td>医業収益</td><td>６５，８２０</td></tr><tr><td>運営費負担金収益</td><td>３，８６１</td></tr><tr><td>その他営業収益</td><td>３８３</td></tr><tr><td>営業外収益</td><td>５３８</td></tr><tr><td>運営費負担金収益</td><td>４４３</td></tr><tr><td>その他営業外収益</td><td>９５</td></tr><tr><td>資本収入</td><td>３，７１９</td></tr><tr><td>長期借入金</td><td>１，４９３</td></tr><tr><td>運営費負担金</td><td>２，２２６</td></tr><tr><td>その他資本収入</td><td>０</td></tr><tr><td>その他の収入</td><td>０</td></tr><tr><td>計</td><td>７４，３２１</td></tr><tr><td>支出</td><td></td></tr><tr><td>営業費用</td><td>６１，６２４</td></tr><tr><td>医業費用</td><td>５９，６８２</td></tr><tr><td>給与費</td><td>３２，１８９</td></tr><tr><td>材料費</td><td>１５，８９０</td></tr><tr><td>経費</td><td>１１，２１３</td></tr><tr><td>研究研修費</td><td>３９０</td></tr><tr><td>一般管理費</td><td>１，９４２</td></tr></table></td><td colspan="2">３－１　予算（平成２５年度）<br>（単位：百万円）<br><table><tr><th>区　分</th><th>金　額</th></tr><tr><td>収入</td><td></td></tr><tr><td>営業収益</td><td>１５，８２７</td></tr><tr><td>医業収益</td><td>１４，８５１</td></tr><tr><td>運営費負担金収益</td><td>８７２</td></tr><tr><td>その他営業収益</td><td>１０４</td></tr><tr><td>営業外収益</td><td>１１２</td></tr><tr><td>運営費負担金収益</td><td>７２</td></tr><tr><td>その他営業外収益</td><td>４０</td></tr><tr><td>資本収入</td><td>５８２</td></tr><tr><td>長期借入金</td><td>８５</td></tr><tr><td>運営費負担金</td><td>３４２</td></tr><tr><td>その他資本収入</td><td>１５５</td></tr><tr><td>その他の収入</td><td>０</td></tr><tr><td>計</td><td>１６，５２１</td></tr><tr><td>支出</td><td></td></tr><tr><td>営業費用</td><td>１４，１１４</td></tr><tr><td>医業費用</td><td>１３，７７９</td></tr><tr><td>給与費</td><td>７，４０１</td></tr><tr><td>材料費</td><td>３，７２４</td></tr><tr><td>経費</td><td>２，５７６</td></tr><tr><td>研究研修費</td><td>７８</td></tr><tr><td>一般管理費</td><td>３３５</td></tr></table></td><td colspan="2">３－１　決算（平成２５年度）<br>（単位：百万円）<br><table><tr><th>区　分</th><th>金　額</th></tr><tr><td>収入</td><td></td></tr><tr><td>営業収益</td><td>１６，６４２</td></tr><tr><td>医業収益</td><td>１５，６７６</td></tr><tr><td>運営費負担金収益</td><td>８５２</td></tr><tr><td>その他営業収益</td><td>１１４</td></tr><tr><td>営業外収益</td><td>１１０</td></tr><tr><td>運営費負担金収益</td><td>７０</td></tr><tr><td>その他営業外収益</td><td>４０</td></tr><tr><td>資本収入</td><td>５３５</td></tr><tr><td>長期借入金</td><td>８５</td></tr><tr><td>運営費負担金</td><td>３１５</td></tr><tr><td>その他資本収入</td><td>１３５</td></tr><tr><td>その他の収入</td><td>０</td></tr><tr><td>計</td><td>１７，２８７</td></tr><tr><td>支出</td><td></td></tr><tr><td>営業費用</td><td>１４，３４３</td></tr><tr><td>医業費用</td><td>１４，０２１</td></tr><tr><td>給与費</td><td>７，２５３</td></tr><tr><td>材料費</td><td>４，２１２</td></tr><tr><td>経費</td><td>２，５０４</td></tr><tr><td>研究研修費</td><td>５２</td></tr><tr><td>一般管理費</td><td>３２２</td></tr></table></td><td></td><td></td></tr>
</table>

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 中期計画 | |
|---|---|
| 給与費 | １，４５７ |
| 経費 | ４８５ |
| 営業外費用 | ７２２ |
| 資本支出 | ８，６５４ |
| 建設改良費 | ４，９７２ |
| 償還金 | ３，６２４ |
| その他資本支出 | ５８ |
| その他の支出 | １６５ |
| 計 | ７１，１６５ |

（注記　略）

**３－２　収支計画**（平成２２年度～平成２６年度）

（単位：百万円）

| 区　分 | 金　額 |
|---|---|
| 収益の部 | ７０，５３０ |
| 営業収益 | ６９，９９７ |
| 医業収益 | ６５，７２８ |
| 運営費負担金収益 | ３，８６１ |
| 資産見返負債戻入 | ３０ |
| その他営業収益 | ３７８ |
| 営業外収益 | ５３３ |
| 運営費負担金収益 | ４４３ |
| その他営業外収益 | ９０ |
| 臨時利益 | ０ |
| 費用の部 | ７０，５５９ |
| 営業費用 | ６７，７５８ |
| 医業費用 | ６５，９１４ |
| 給与費 | ３３，８５４ |
| 材料費 | １５，１５０ |
| 経費 | １１，０６１ |
| 減価償却費 | ５，４７４ |
| 研究研修費 | ３７５ |
| 一般管理費 | １，８４４ |
| 給与費 | １，３４９ |
| 減価償却費 | ５０ |
| 経費 | ４４５ |
| 営業外費用 | ２，６３６ |
| 臨時損失 | １１５ |

| H25年度計画 | |
|---|---|
| 給与費 | ２４１ |
| 経費 | ９４ |
| 営業外費用 | １２２ |
| 資本支出 | １，４４９ |
| 建設改良費 | ８１２ |
| 償還金 | ６０９ |
| その他資本支出 | ２８ |
| その他の支出 | １０ |
| 計 | １５，６９５ |

（注記　略）

**３－２　収支計画**（平成２５年度）

（単位：百万円）

| 区　分 | 金　額 |
|---|---|
| 収益の部 | １５，９３１ |
| 営業収益 | １５，８１３ |
| 医業収益 | １４，８３１ |
| 運営費負担金収益 | ８７２ |
| 資産見返負債戻入 | ６ |
| その他営業収益 | １０４ |
| 営業外収益 | １１８ |
| 運営費負担金収益 | ７２ |
| その他営業外収益 | ４６ |
| 臨時利益 | ０ |
| 費用の部 | １５，５９８ |
| 営業費用 | １５，０９０ |
| 医業費用 | １４，７２５ |
| 給与費 | ７，３９０ |
| 材料費 | ３，５５４ |
| 経費 | ２，４７２ |
| 減価償却費 | １，２３５ |
| 研究研修費 | ７４ |
| 一般管理費 | ３６５ |
| 給与費 | ２４９ |
| 減価償却費 | ２６ |
| 経費 | ９０ |
| 営業外費用 | ４４６ |
| 臨時損失 | ５２ |

| 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | |
|---|---|
| 給与費 | ２４５ |
| 経費 | ７７ |
| 営業外費用 | １２１ |
| 資本支出 | １，４８３ |
| 建設改良費 | ７４６ |
| 償還金 | ７２９ |
| その他資本支出 | ８ |
| その他の支出 | ５２ |
| 計 | １５，９９９ |

（注記　略）

**３－２　収支計画**（平成２５年度）

（単位：百万円）

| 区　分 | 金　額 |
|---|---|
| 収益の部 | １６，４７４ |
| 営業収益 | １６，３５９ |
| 医業収益 | １５，３８９ |
| 運営費負担金収益 | ８５２ |
| 資産見返負債戻入 | ６ |
| その他営業収益 | １１２ |
| 営業外収益 | １１５ |
| 運営費負担金収益 | ７０ |
| その他営業外収益 | ４５ |
| 臨時利益 | ０ |
| 費用の部 | １５，８９８ |
| 営業費用 | １５，３８２ |
| 医業費用 | １５，０２０ |
| 給与費 | ７，３７５ |
| 材料費 | ３，９７９ |
| 経費 | ２，４３８ |
| 減価償却費 | １，１７７ |
| 研究研修費 | ５１ |
| 一般管理費 | ３６２ |
| 給与費 | ２６２ |
| 減価償却費 | ２５ |
| 経費 | ７５ |
| 営業外費用 | ４６４ |
| 臨時損失 | ５２ |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 中期計画 | |
|---|---|
| 予備費 | ５０ |
| 純利益 | －２９ |
| 目的積立金取崩額 | ０ |
| 総利益 | －２９ |

| H25 年度計画 | |
|---|---|
| 予備費 | １０ |
| 純利益 | ３３３ |
| 目的積立金取崩額 | ０ |
| 総利益 | ３３３ |

| 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | |
|---|---|
| 予備費 | ０ |
| 純利益 | ５７６ |
| 目的積立金取崩額 | ０ |
| 総利益 | ５７６ |

**３－３　資金計画**（平成２２年度～平成２６年度）

（単位：百万円）

| 区　分 | 金　額 |
|---|---|
| 資金収入 | ７６，７０２ |
| 業務活動による収入 | ７０，６０２ |
| 診療業務による収入 | ６５，８２０ |
| 運営費負担金による収入 | ４，３０４ |
| その他の業務活動による収入 | ４７８ |
| 投資活動による収入 | ２，２２６ |
| 運営費負担金による収入 | ２，２２６ |
| その他の投資活動による収入 | ０ |
| 財務活動による収入 | １，４９３ |
| 長期借入による収入 | １，４９３ |
| その他の財務活動による収入 | ０ |
| 前事業年度からの繰越金 | ２，３８１ |
| 資金支出 | ７６，７０２ |
| 業務活動による支出 | ６２，４６８ |
| 給与費支出 | ３３，６４７ |
| 材料費支出 | １５，８９０ |
| その他の業務活動による支出 | １２，９３１ |
| 投資活動による支出 | ５，０２９ |
| 有形固定資産の取得による支出 | ４，９７２ |
| その他の投資活動による支出 | ５７ |
| 財務活動による支出 | ３，６２４ |
| 長期借入金の返済による支出 | ３３２ |
| 移前地方債償還債務の償還による支出 | ３，２９２ |
| その他財務活動による支出 | ０ |
| 翌事業年度への繰越金 | ５，５８１ |

**３－３　資金計画**（平成２５年度）

（単位：百万円）

| 区　分 | 金　額 |
|---|---|
| 資金収入 | ２２，３４９ |
| 業務活動による収入 | １５，９３９ |
| 診療業務による収入 | １４，８５１ |
| 運営費負担金による収入 | ９４４ |
| その他の業務活動による収入 | １４４ |
| 投資活動による収入 | １９４ |
| 運営費負担金による収入 | ３９ |
| その他の投資活動による収入 | １５５ |
| 財務活動による収入 | ３８８ |
| 長期借入による収入 | ８５ |
| その他の財務活動による収入 | ３０３ |
| 前事業年度からの繰越金 | ５，８２８ |
| 資金支出 | ２２，３４９ |
| 業務活動による支出 | １４，２３６ |
| 給与費支出 | ７，６４２ |
| 材料費支出 | ３，７２４ |
| その他の業務活動による支出 | ２，８７０ |
| 投資活動による支出 | ８４０ |
| 有形固定資産の取得による支出 | ８１３ |
| その他の投資活動による支出 | ２７ |
| 財務活動による支出 | ６０９ |
| 長期借入金の返済による支出 | ３４ |
| 移前地方債償還債務の償還による支出 | ５１６ |
| その他財務活動による支出 | ５９ |
| 翌事業年度への繰越金 | ６，６６４ |

**３－３　資金計画**（平成２５年度）

（単位：百万円）

| 区　分 | 金　額 |
|---|---|
| 資金収入 | ２２，７２０ |
| 業務活動による収入 | １６，５５８ |
| 診療業務による収入 | １５，４０２ |
| 運営費負担金による収入 | ８８７ |
| その他の業務活動による収入 | ２６９ |
| 投資活動による収入 | ８７ |
| 運営費負担金による収入 | ３９ |
| その他の投資活動による収入 | ４８ |
| 財務活動による収入 | ３９５ |
| 長期借入による収入 | ８５ |
| その他の財務活動による収入 | ３１０ |
| 前事業年度からの繰越金 | ５，６８０ |
| 資金支出 | ２２，７２０ |
| 業務活動による支出 | １４，４６８ |
| 給与費支出 | ６，２７１ |
| 材料費支出 | ４，１０３ |
| その他の業務活動による支出 | ４，０９４ |
| 投資活動による支出 | ６４０ |
| 有形固定資産の取得による支出 | ６２１ |
| その他の投資活動による支出 | １９ |
| 財務活動による支出 | ７２９ |
| 長期借入金の返済による支出 | １５４ |
| 移前地方債償還債務の償還による支出 | ５１６ |
| その他財務活動による支出 | ５９ |
| 翌事業年度への繰越金 | ６，８８３ |

## ４　短期借入金の限度額

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ― | **４－１　限度額**<br>１０億円<br>**４－２　想定される短期借入金の発生理由**<br>賞与の支給等、資金繰り資金への対応 | | | | | **４－１　限度額**<br>１０億円<br>**４－２　想定される短期借入金の発生理由**<br>賞与の支給等、資金繰り資金への対応 | **４－１　限度額**<br>１０億円<br>**４－２　想定される短期借入金の発生理由**<br>実績なし | | | |

## ５　重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ― | なし | | | | | なし | なし | | | |

## ６　剰余金の使途

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ― | 決算において剰余金が発生した場合は、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。 | | | | | 決算において剰余金が発生した場合は、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。 | なし | | | |

## ７　その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項
### ７－１　職員の就労環境の向上

| | |
|---|---|
| 中期目標 | ６　その他業務運営に関する重要事項<br>６－１　職員の就労環境の向上<br>職員の実情等を考慮した柔軟な勤務形態の導入、院内保育施設等の整備・拡充といった育児支援体制の充実など、日常業務の質の向上を図るために必要な職員の就労環境の整備に努めること。<br>さらに、地方独立行政法人制度の特徴を十分に活かし、不足している医療従事者（特に看護師）を必要な人数確保することによって、病院職員全体の勤務環境を改善すること。 |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td>56</td><td>（1）医療従事者の業務負担を軽減し、本来の業務に専念できるようにするため、必要な人数を迅速に確保することで、病院全体の勤務環境の改善を図る。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（1）医師の事務負担軽減のため、医師事務作業補助者の追加配置を推進する。</td><td>（1）各診療科の医師の要望に応じ、医師事務作業補助者を２４名から２７名に増員し、さらに医師から要望の強かった病棟にも１名を配置して医師の過密業務の軽減を図り、補助体制加算は昨年度の３０：１から２５：１となった。<br>【医師事務作業補助者等の状況】（各年度末時点）<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>常勤医師数</td><td>９９人</td><td>１０５人</td><td>１１２人</td></tr><tr><td>常勤歯科医師数</td><td>4人</td><td>5人</td><td>5人</td></tr><tr><td>常勤看護師数</td><td>４２２人</td><td>４３３人</td><td>４３７人</td></tr><tr><td>常勤准看護師数</td><td>4人</td><td>4人</td><td>4人</td></tr><tr><td>医師事務作業補助者<br>(医療ｸﾗｰｸ)</td><td>１６人</td><td>２４人</td><td>28人</td></tr><tr><td>病棟事務補助者<br>(看護ｸﾗｰｸ)</td><td>9人</td><td>１１人</td><td>１１人</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>57</td><td>（2）育児中の女性職員のために院内保育所の受け入れ体制を強化する。具体的には、保育対象年齢の引き上げ、病後児保育の追加を検討する。また、保育対象年齢引き上げに伴う受け入れ人数増加に対応するため、既存保育施設の増築及び一部改修を進める。さらに時差出勤制度の導入により、仕事と家庭の両立を図る。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（2）院内保育所での夜間保育を開始する。</td><td>（2）平成２５年４月から民間会社に保育業務を委託し、夜間保育及び休日保育を開始するとともに、病児保育の利便性を向上させた。<br><br>【夜間保育】<br>・毎週金曜日に対応可能<br>・平成２５年度実績１２回<br><br>【休日保育】<br>・１２月３１日～１月３日を除く全ての日に対応可能<br>・平成２５年度実績９２回</td><td>Ⅳ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>【院内保育所の運営状況】　（各年度末時点）<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>入所者数</td><td>４４人</td><td>３７人</td><td>３６人<br>（うち夜間利用１人）</td></tr><tr><td>保育士数</td><td>９人</td><td>８人</td><td>委託先にて必要人数を配置</td></tr></table><br>【病児保育利用実績】<br><table><tr><th>区分＼年度</th><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>延人数</td><td>１２人</td><td>２０人</td><td>８４人</td></tr></table></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>58</td><td>（３）看護師については、７対１看護体制の導入のため、新規採用者の積極的な受け入れと離職防止に努め、必要な職員数を確保し、看護師の就労環境の整備に努める。</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>（３）７対１看護体制の導入のため、新規採用者の積極的な受け入れと離職防止に努め、必要な職員数を確保し、看護師の就労環境の整備に努める。<br>・　就職ガイダンスについて、より看護師確保に効果的なガイダンスを選定し参加するとともに、学校訪問等を実施する。<br>・　継続的にインターネットや、新聞紙面への広告掲載、折込チラシ等、各種広報媒体を活用した募集活動を実施する。<br>・　高校生を対象としたふれあい看護体験を実施する。<br>・　仕事と家庭を両立させるため、育児部分休業の活用を推進する。</td><td>（３）７対１看護体制の導入のため、新規採用者の積極的な受け入れと離職防止に努め、必要な職員数を確保し、看護師の就労環境の整備に努めた。<br>・　就職ガイダンス（一般）<br>ＳＭＳ、中日ｱﾄﾞﾚｯﾌﾟ、マイナビ<br>・　就職ガイダンス（学内開催）<br>中京学院大学、岐阜県立看護大学<br>・　広報媒体を利用した募集活動<br>新聞広告　：東濃新報６、８、10、１月号<br>：中日新聞９／10(火)、９／11(水)<br>折込チラシ：中日新聞朝刊９／15（日）<br>・　ふれあい看護体験　７月２６日開催<br>参加高校生　　５０人<br><br>【育児部分休業制度活用人数】<br><table><tr><th>Ｈ２３</th><th>Ｈ２４</th><th>Ｈ２５</th></tr><tr><td>５人</td><td>７人</td><td>１２人</td></tr></table></td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 | | | | H25年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 | | 評価委員会の検証 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | H22 | H23 | H24 | H25 | | 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
| 59 | （4）全職員を対象とした健康管理対策及びメンタルヘルス対策の充実にも努める。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | （4）全職員を対象とした健康管理対策及びメンタルヘルス対策の充実にも努め、法定健診（定期健康診断、人間ドック）、任意検査等（各種抗体検査、各種予防接種）を実施する。<br>○メンタルヘルス対策<br>・　各職場における精神疾患の未然防止のため、管理職及び新規採用職員を対象とした研修会や、全職員を対象とした講演会を実施する。<br><br>○定期健康診断及び特殊健康診断<br>・　労働安全衛生法に基づき、非常勤職員を含む全職員に対して実施する。<br>・　要精密検査等の指示のあった者に対して、文書により受診勧告を行う。<br><br>○人間ドック<br>・　３０歳代偶数年齢及び４０歳以上の正職員のうち希望者に対して実施する。<br><br>○肝炎検査<br>・　肝炎に暴露する可能性のある職場に勤務する職員に対して実施する。<br>・　陰性者に対するワクチン接種に努める。 | （4）全職員を対象とした健康管理対策及びメンタルヘルス対策の充実に努め、法定健診（定期健康診断、人間ドック）、任意検査等（各種抗体検査、各種予防接種）を実施した。<br>○メンタルヘルス対策<br>・　各職場における精神疾患未然防止のため、管理職職員に対して６月にメンタルヘルスケア講演会を実施した。<br>・　新規採用職員に対しては、研修の一環として当院精神科部長による講義を実施した。<br>・　メンタルヘルスケア相談窓口にメールアドレスを追加し、より利用しやすい体制を整えた。<br>【メンタルヘルスケア相談件数】<br>平成２３年度　１２件<br>平成２４年度　１３件<br>平成２５年度　１７件<br>○定期健康診断及び特殊健康診断<br>・　労働安全衛生法に基づき、５月に非常勤職員を含む全職員に対して実施した。<br>・　未受診者に対しては１２月に追加実施を行った。<br>・　要精密検査等の指示のあった者に対して、文書により受診勧告を行った。<br>○人間ドック<br>・　３０歳代偶数年齢及び４０歳以上の共済組合加入職員のうち希望者に対し実施した。<br>・　受診費用については、当院と共済組合から助成を行った。<br>・　平成２５年度は対象者４００名のうち３３１名が受診した。<br>○肝炎検査<br>・　肝炎に暴露する可能性のある職場に勤務する職員に対して実施した。<br>・　陰性者には病院経費によりワクチン接種を実施した。 | Ⅲ | | |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ○小児４種抗体検査<br>・　新規採用者及び転入者に対して実施する。<br><br>○結核検診<br>・　結核菌に暴露する可能性のある職場に勤務する職員に対して結核検診として、定期健康診断と併せて年２回の胸部Ｘ線撮影を行うとともに年１回の血液検査を行う。<br>・　４０歳以上の職員を対象に血液検査を実施し、各個人の基準値となる数値の把握を行う。 | ・　感染管理看護師の積極的な働きかけにより、陰性者のうち新規採用者の１００％、既存職員の７０％に対しワクチン接種を実施した。<br>○小児４種抗体検査<br>・　新規採用者及び転入者に対して実施した。<br>・　陰性者に対しワクチン接種を実施し、１２月に再度抗体検査を行った。<br><br>○結核健診<br>・　結核菌に暴露する可能性のある職場に勤務する職員に対し、定期健康診断と併せて年２回の胸部Ｘ線撮影を行うとともに年１回の血液検査を行った。<br>・　４０歳以上の職員を対象に血液検査を実施し、各個人の基準値となる数値の把握を行った。<br>・　血液検査陽性者に文書により受診勧告を行った。 | | | |

## ７－２　県及び他の地方独立行政法人との連携に関する事項

| 中期目標 | ６－２　県及び他の地方独立行政法人との連携<br>人事交流など、県及び県の設立した他の地方独立行政法人との連携を推進すること。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 60 | 医師、看護師やコメディカルなどの医療従事者の人事交流など、県及び県が設立した他の地方独立行政法人との連携を推進する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | 医師、看護師やコメディカルなどの医療従事者の人事交流など、県及び県が設立した他の地方独立行政法人との連携を推進する。 | ・　県及び３法人間の人事交流を行った。<br><br>【職員の他法人への出向状況】<br>区分＼年度 / H23 / H24 / H25<br>医師 / 0人 / 0人 / 0人 | Ⅲ | | |

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | コメディカル 3人 1人 0人<br>合計 3人 1人 0人<br><br>【他法人職員の受入状況】<br>区分＼年度 H23 H24 H25<br>医師 0人 0人 0人<br>看護師 2人 1人 0人<br>コメディカル 3人 1人 1人<br>合計 5人 2人 1人<br><br>（派遣元、職種別内訳）<br>派遣元：岐阜県総合医療センター／人数及び職員の内訳：薬剤師 1名<br><br>【県からの派遣状況】<br>区分＼年度 H23 H24 H25<br>医師 2人 1人 2人<br>事務 15人 11人 8人<br>合計 17人 12人 10人 | | | |

## 7－3　医療機器・施設整備に関する事項

| 中期目標 | 6－3　医療器械・施設整備<br>医療機器・施設整備については、費用対効果、県民の医療需要、医療技術の進展など総合的に勘案して計画的に実施すること。 |
|---|---|

| 項目No. | 中期計画 | 過年度の検証結果 H22 | H23 | H24 | H25 | H25 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価 業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項 | 自己評価 | 評価委員会の検証 検証結果 | 検証結果の説明、特筆すべき事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | （1）中期目標の期間における医療機器・施設整備に当たっては、費用対効果、県民の医療需要、医療技術の進展などを総合的に判断して着実に実施する。 | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | | ・　医療機器整備委員会において各診療科の要望を取りまとめて、費用対効果、需要と医療技術の進歩などを総合的に判断して購入予定機器を選定し、新規購入や更新を補助金の活用も図りながら | ・　医療機器整備委員会において各診療科の要望を取りまとめて、費用対効果、需要と医療技術の進歩などを総合的に判断して購入予定機器を選定し、購入を実施した。 | Ⅲ | | |

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>施設及び設備の内容</th><th>予定額（単位：百万円）</th><th>財　源</th></tr>
<tr><td>病院施設、医療機器等整備</td><td>４，９７２</td><td>設立団体からの長期借入金等</td></tr>
</table>
</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>計画的に進める。<br>（単位：百万円）
<table>
<tr><th>区分</th><th>金　額</th></tr>
<tr><td>医療機器等整備</td><td>５４０</td></tr>
<tr><td>施設等整備</td><td>１２６</td></tr>
<tr><td>計</td><td>６６６</td></tr>
</table>
</td><td>・　中病棟副玄関から東病棟時間外出入口間の歩道に屋根を整備し、雨天時等における車椅子等を使用した来院者の利便性向上を図った。<br>（単位：百万円）
<table>
<tr><th>区分</th><th>金　額</th></tr>
<tr><td>医療機器等整備</td><td>５４０</td></tr>
<tr><td>施設等整備</td><td>７６</td></tr>
<tr><td>計</td><td>６１６</td></tr>
</table>
</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

## ７－４　法人が負担する債務の償還に関する事項

| 中期目標 | ６－４　法人が負担する債務の償還に関する事項<br>法人は、岐阜県に対し、地方独立行政法人法第６６条第１項に規定する地方債のうち、法人成立の日までに償還されていないものに相当する額の債務を負担すること。<br>また、その債務の処理を確実に行うこと。 |
|---|---|

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td>62</td><td>法人が岐阜県に対し負担する債務の償還を確実に行っていく。<br>（単位：百万円）
<table>
<tr><th>区　分</th><th>中期目標期間償還額</th><th>次期以降償還額</th><th>総債務償還額</th></tr>
<tr><td>移行前地方債償還債務</td><td>3,292</td><td>3,232</td><td>6,524</td></tr>
<tr><td>長期借入金償還額</td><td>332</td><td>1,161</td><td>1,493</td></tr>
</table>
</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td>Ⅲ</td><td></td><td>法人が岐阜県に対し負担する債務の償還を確実に行う。</td><td>企業債平成２５年度償還額（元本）<br>９月　　１億　８千　８百万円<br>３月　　４億　８千　２百万円<br>計　　６億　７千　　万円<br><br>【債務の償還状況（合計）】<br>（単位：百万円）
<table>
<tr><th>年度</th><th>実績</th><th>計画</th></tr>
<tr><td>22 年</td><td>９３２</td><td>９３２</td></tr>
<tr><td>23 年</td><td>８９５</td><td>８６１</td></tr>
<tr><td>24 年</td><td>４８１</td><td>５５８</td></tr>
<tr><td>25 年</td><td>６７０</td><td>６６８</td></tr>
<tr><td>26 年</td><td></td><td>６０５</td></tr>
<tr><td>中期計画期間計</td><td></td><td>3,６２４</td></tr>
</table>
</td><td>Ⅲ</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項目No.</th><th rowspan="2">中期計画</th><th colspan="4">過年度の検証結果</th><th rowspan="2">H25 年度計画</th><th colspan="2">年度計画に係る業務実績、法人の自己評価</th><th colspan="2">評価委員会の検証</th></tr>
<tr><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>業務実績、<br>自己評価の説明、特筆すべき事項</th><th>自己評価</th><th>検証結果</th><th>検証結果の説明、特筆すべき事項</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>（内訳）<br>移行前地方債償還債務　（単位：百万円）
<table>
<tr><th>年度</th><th>実績</th><th>計画</th></tr>
<tr><td>22 年</td><td>９３２</td><td>９３２</td></tr>
<tr><td>23 年</td><td>８６１</td><td>８６１</td></tr>
<tr><td>24 年</td><td>４４７</td><td>４４７</td></tr>
<tr><td>25 年</td><td>５１６</td><td>５５７</td></tr>
<tr><td>26 年</td><td></td><td>４９５</td></tr>
<tr><td>中期計画期間計</td><td></td><td>３，２９２</td></tr>
</table>
長期借入金償還額　（単位：百万円）
<table>
<tr><th>年度</th><th>実績</th><th>計画</th></tr>
<tr><td>22 年</td><td></td><td>０</td></tr>
<tr><td>23 年</td><td>３４</td><td>０</td></tr>
<tr><td>24 年</td><td>３４</td><td>１１１</td></tr>
<tr><td>25 年</td><td>１５４</td><td>１１１</td></tr>
<tr><td>26 年</td><td></td><td>１１０</td></tr>
<tr><td>中期計画期間計</td><td></td><td>３３２</td></tr>
</table>
・　法人として岐阜県に対し負担する債務の償還を確実に行った。</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>